

助産師教育研修研究
センター事業報告書
2020年度

公益社団法人 全国助産師教育協議会
助産師教育研修研究センター



目次

I.	はじめに	2
II.	助産師教育研修研究センター事業概要	3
	1. 目的	3
	2. 事業内容	3
III.	コロナウイルス感染拡大に伴う対応 経緯.....	4
	各事業の当初計画と計画変更・実施内容	4
	Covid-19 対応 協議内容	4
IV.	各事業の計画と実施	5
	ファーストステージ研修	5
	1) 目的	5
	2) 受講生	5
	3) 年間講義スケジュール	5
	4) 2020 年度開講科目実績	7
	(1) 受講生の属性	7
	(2) 担当講師	8
	(3) 講義の評価	9
	(4) 演習の成果	20
	5) 公開講座	46
	セカンドステージ研修	48
	1) 概要	48
	2) 受講生	49
	(1) 講義の評価	50
	(2) 演習の成果	59
	特定分野(助産)における保健師助産師看護師実習指導者講習会	69
	1) 目的	69
	2) 科目内容	69
	3) 2020 年度実績	69
	e-learning 研修	70
	1) コンテンツ	70
	2) 2020 年度配信数	70
	3) 講義の評価	70
V.	センター事業における CLoCMiP®レベルⅢ認証申請のための研修一覧	75

I. はじめに

中華人民共和国武漢市に端を発した COVID-19 感染症は世界各地で猛威を振るい、日本においても 2020 年 1 月 16 日に COVID-19 感染症が報告されて以来、その感染者数は 74.5 万 (5/31 日) と増加の一途をたどっている。COVID-19 感染症は医療界、産業界、経済界、教育界とあらゆる分野に影響をもたらし、本研修研究センターにおいても教育計画や実践分野で計画変更を余儀なくされた。2020 年度の教育研修研究センターの研修事業は従来の対面教育は行えず、教育方法は ZOOM でのオンライン教育に切り替えた。

センター事業の 3 本柱である 1. 助産師教育セカンドステージ研修は、教科目「助産師教育運営組織論」において、2019 年 11 月に研修生の組織改革のアクションプランを受けて、2020 年 11 月 29 日、2021 年 3 月 6 日に GW で検討を重ねた 4 つの課題が報告された。参加者は 12 名で、満足度は回答者 11 名中 10 名が満足であった。2. ファーストステージ研修は、2020 年度は通年の研修は行えず、2020 年 11 月～2022 年 3 月までの 17 か月間で、教科目ごとに科目履修生として公募し、順次全科目を開講することになった。教育計画は 2022 年度から新カリキュラムの教育が開始されるので、「助産師教育課程」「助産師教育方法論」「助産師教育方法論演習」「助産論」「助産論演習」「助産師教育評価」の順に進め、上記 7 単科目履修生は「助産師教育実習」を履修することで全科目履修生に該当させる。3. 2020 年度の特定分野(助産)保健師助産師看護師実習指導者講習会は教育計画・日程表等、開講の諸準備を整えたが、COVID-19 感染症を勘案して中止とした。2021 年度は 8 月 16 日～10 月 23 日に開催予定で、受講生定員は 30 名であるが 40 名まで受講可能とすることで準備を進めている。

COVID-19 感染症の影響は、本センターにも甚大な影響をもたらしたが、オンライン教育により全国各地から受講生が参集でき、ZOOM での新しい教育方法で教育の改善を図り、質の担保を図っていく必要性を感じている。本年度も教育事業に携わって下さいました委員各位、ご指導くださいました講師の先生方、教育機関会員の皆様方に衷心より厚く御礼申し上げます。

2021 年 5 月 助産師教育研修研究センター長 平澤美恵子

II. 助産師教育研修研究センター事業概要

1. 目的

公益社団法人全国助産師教育協議会 助産師教育研修研究センター（以下、本センター）は、助産師教育に携わる者が、高度な助産実践の教育力を修得・維持し、助産師教育の質の向上に生涯学習の場として資することを目的とする。

2. 事業内容

- ① 助産師教育に関わる教員を対象とした研修
（教育学に関する内容、助産師教育課程、助産師教育の基礎に関する内容、助産（論）、助産師教育論・教育制度、助産師教育方法及び評価、学校運営等）
- ② 助産師教育に関わる臨床指導者を対象とした研修
（教育学に関する内容、助産師教育課程、助産師教育の基礎に関する内容、助産学（論）、助産師教育論・教育制度、助産師教育方法及び評価、臨床指導論、指導技術のスキルアップ等）
- ③ 研究機関に属さない助産教員を対象に、助産研究能力の向上を目指した支援

III. コロナウィルス感染拡大に伴う対応 経緯

各事業の当初計画と計画変更・実施内容

事業名	実施状況
ファーストステージ研修	<p>【2019年度分】</p> <p>科目配置として最後であった「助産師教育評価」はCovid19のため当初の2020年3月に開催できず、2020年度に持ち越して全回オンライン（ズーム、ライブ講義）で実施した。実施時期は受講生に希望を募り8～9月に行った。講師のレポート評価を終え、2020年9月28日に修了証書を発行し、2019年度ファーストステージ研修を完了した。</p> <p>【2020年度分】</p> <p>4月第1回センター運営委員会において、感染状況やそれに伴う状況不透明な社会情勢を鑑み開催中止を決定した。しかし理事会の意向を受け、オンライン運営などの工夫をしつつ2020～2021年度の2か年をかけて開催することとなった。2020年度は「助産師教育課程」「助産師教育方法論」の2科目を開講した。科目配置は指定規則改正によるカリキュラム編成作業があることをふまえ、例年に倣わず「助産師教育課程」から開講し（11月～2021年2月、受講生12名）、次いで2021年2月から「助産師教育方法論」（受講生18名）を開講した。2科目とも全回オンラインで実施した。</p>
セカンドステージ研修	<p>Covid19のため、2019年度内に修了できなかった「助産師教育運営組織論」は、2020年度に渡って開講することとなった。2020年11月～2021年3月に全回オンライン（ズーム、ライブ）で実施した（受講生12名）。事後の受講生アンケート、到達度自己評価は概ね良好であった。</p>
特定分野指導者講習会	<p>Covid19による臨床現場の混乱から応募者の減少が想定されること、厚労省補助金も出ないこと等から、第1回センター運営委員会で開催中止を決定し、5月理事会で承認された。2020年度は実施しなかった。</p>
e-learning研修	<p>予定通り実施。8コンテンツからなるセットを24セット配信した。</p>

Covid-19 対応 協議内容

回	日にち	協議内容
1	2020年4月19日（日）	<p>2020年度研修 開講中止を理事会に提案</p> <p>2019年度未開講研修のオンライン開講を決定</p> <p>2020年アドバンス助産師更新申請受講生の更新時期の検討</p>
2	2020年5月30日（土）	<p>2020年・2021年度オンライン研修開催を決定</p> <p>2019年度ファーストステージ研修（助産師教育評価）の進め方の検討</p> <p>2019年度セカンドステージ研修（助産師教育運営組織論）の進め方の検討</p>
3	2020年6月20日（土）	2019年度ファーストステージ研修（助産師教育評価）オンライン講義の検討
4	2020年7月19日（日）	2019年度ファーストステージ研修（助産師教育評価）オンライン講義の検討
5	2020年8月9日（日）	<p>2019年度ファーストステージ研修（助産師教育評価）オンライン講義の検討</p> <p>助産師教育研修研究センター1st研修、2nd研修の教育規程（案）の作成</p> <p>1st研修2020年度（2020年～2021年 2022.3月修了予定）の進め方の検討</p>
6	2020年9月13日（日）	2019年度ファーストステージ研修（助産師教育評価）オンライン講義実施報告
7	2020年10月25日（日）	<p>2020年度ファーストステージ研修受講希望者数報告</p> <p>2020年度・2021年度ファーストステージ研修の進め方に関する検討</p> <p>助産師教育方法論開講に向けた進捗報告</p>
8	2020年12月13日（日）	<p>2020年度・2021年度科目履修のみ開講を決定（全科目履修生募集せず）</p> <p>2022年のカリキュラム改訂に向け助産師教育課程再開の可能性報告</p> <p>e-learningコンテンツ追加・継続の検討</p> <p>2021年度特定分野（助産）講習会開講方針決定</p>
10	2021年3月9日（火）	<p>2020年度生の教育実習実施状況報告</p> <p>コロナ禍での教育実習方針の検討</p>

IV. 各事業の計画と実施

ファーストステージ研修

1) 目的

助産師教育に携わる教員や臨地実習指導者が、助産実践力を基盤に助産観と教育観に裏付けられた教育力を養い、ひいては助産師教育全体の質の向上を図ることを目的とする。

2) 受講生

2020年度「助産師教育ファーストステージ研修」は、大学、短期大学、専門学校、臨地で助産師教育に携わっている者が受講した。

3) 年間講義スケジュール

例年のスケジュール 助産師教育課程

スケジュール					
	1時限 (9:30～11:00)	2時限 (11:10～12:40)	3時限 (13:30～15:00)	4時限 (15:10～16:40)	5時限 (16:50～18:20)
	科目名(講師)	科目名(講師)	科目名(講師)	科目名(講師)	科目名(講師)
助産師教育課程	助産師教育課程	助産師教育課程	助産師教育課程		
	佐々木 幾美	佐々木 幾美	日本助産師会 安達久美子		
	助産師教育課程	助産師教育課程演習	助産師教育課程演習	助産師教育課程演習	助産師教育課程演習
	北村 聖	浅見恵梨子・藤井宏子	浅見恵梨子・藤井宏子	浅見恵梨子・藤井宏子	浅見恵梨子・藤井宏子
	助産師教育課程演習	助産師教育課程演習		助産師教育課程演習	助産師教育課程演習
	恵美須文枝・藤井宏子	恵美須文枝・藤井宏子		恵美須文枝・藤井宏子	恵美須文枝・藤井宏子

実際のスケジュール

日時	内容
11月29日(日)	9:00～10:30 ガイダンスオリエンテーション 10:40～14:40 講義(佐々木幾美講師)
12月6日(日)	9:00～12:10 演習
12月12日(土)	13:10～14:40 講義(北村聖講師)
1月10日(日)	10:40～12:10 演習 13:10～14:40 講義(日本助産師会/安達久美子講師)
1月24日(日)	10:30～12:00 講義(日本看護協会/井本寛子講師)
2月6日(土)	9:00～12:10 演習
2月20日(土)	10:40～12:10 演習

例年のスケジュール 助産師教育方法論

ス ケ ジ ュ ール

	1時限 (9:30~11:00)	2時限 (11:10~12:40)	3時限 (13:30~15:00)	4時限 (15:10~16:40)	5時限 (16:50~18:20)
	科目名(講師)	科目名(講師)	科目名(講師)	科目名(講師)	科目名(講師)
助産師教育方法論		助産師教育方法論 高橋弘子	助産師教育方法論 高橋弘子	助産師教育方法論 高橋弘子	
		助産師教育方法論 村上 明美	助産師教育方法論 伊藤美栄	助産師教育方法論 伊藤美栄	助産師教育方法論 伊藤美栄
	助産師教育方法論 伊藤美栄	助産師教育方法論 伊藤美栄	助産師教育方法論 島田智織	助産師教育方法論 島田智織	助産師教育方法論 島田智織
		助産師教育方法論 村上 明美	助産師教育方法論 村上 明美	助産師教育方法論 村上 明美	助産師教育方法論 村上 明美
	助産師教育方法論 白石 三恵	助産師教育方法論 白石 三恵	助産師教育方法論 白石 三恵	助産師教育方法論 白石 三恵	助産師教育方法論 白石 三恵
	助産師教育方法論 藤井 ひろみ	助産師教育方法論 藤井 ひろみ	助産師教育方法論 藤井 ひろみ	助産師教育方法論 藤井 ひろみ	

実際のスケジュール

日時	内容
2月21日(日)	10:40~14:40 講義(高橋弘子講師)
2月24日(水)	16:50~18:20 講義(高橋弘子講師)
2月27日(土)	16:50~18:20 講義(島田智織講師)
3月1日(月)	16:50~18:20 講義(島田智織講師)
3月2日(火)	16:50~18:20 講義(島田智織講師)
3月3日(水)	16:50~18:20 講義(島田智織講師)
3月7日(日)	10:40~16:20 講義(伊藤美栄講師)
3月14日(日)	10:40~14:40 講義(伊藤美栄講師)
4月3日(土)	13:00~14:30 講義(村上明美講師)
4月10日(土)	13:00~14:30 講義(白石三恵講師)
4月15日(木)	18:30~21:30 講義(藤井ひろみ講師)
4月22日(木)	18:30~21:30 講義(藤井ひろみ講師)
4月29日(木)	13:00~16:00 講義・演習(白石三恵講師)
5月6日(木)	18:00~19:30 講義・演習 (村上明美講師、藤井ひろみ講師、白石三恵講師)
5月15日(土)	13:00~16:00 講義・演習(白石三恵講師)
5月20日(木)	18:00~19:30 講義・演習 (村上明美講師、藤井ひろみ講師、白石三恵講師)
5月27日(木)	18:00~19:30 講義・演習 (村上明美講師、藤井ひろみ講師、白石三恵講師)

- 4) 2020 年度開講科目実績
 (助産師教育課程, 助産師教育方法論)
 (1) 受講生の属性

所属別		助産師教育課程	助産師教育方法論
教育課程	大学院	3	3
	大学・短期大学の専攻科		1
	大学	7	8
	専門学校	1	2
臨床指導者			1
その他		1	1
計		12	16

2名途中キャンセル

(2) 担当講師

科目	氏名	所属	
助産師教育課程 (1 単位 30 時間)	佐々木 幾美	日本赤十字看護大学大学院	
	北村 聖	地域医療振興協会	
	井本 寛子	日本看護協会	
	安達 久美子	日本助産師会	
	浅見 恵梨子	甲南女子大学	
	藤井 宏子	岡山大学大学院	
	岡山 久代	筑波大学大学院	
	萩原 直美	日本赤十字社助産師学校	
	中山 香映	昭和大学助産学専攻科	
助産師教育法論 (2 単位 60 時間)	高橋 弘子	元北海道科学大学	
	伊藤 美栄	国立病院機構京都医療センター 附属京都看護助産学校	
	島田 智織	茨城県立医療大学助産学専攻科	
	助産師教育方法演習 (1 単位 30 時間)	村上 明美	神奈川県立保健福祉大学
		藤井 ひろみ	大手前大学
		白石 三恵	大阪大学大学院

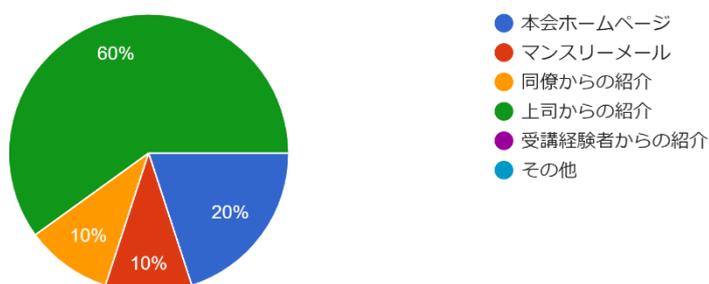
(3) 講義の評価

1) 2020年度 ファーストステージ研修助産師教育課程 研修終了後アンケート結果報告

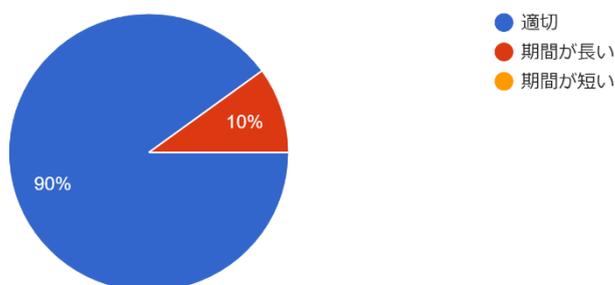
報告者 助産師教育課程ファシリテーター

Google Form で作成されたアンケートの URL を研修最終日にメールで送付、受講生には受講後3日以内で回答を依頼した。受講者12名中10名から回答があった。

1. 研修の開催をどこで知りましたか。1つ選択してください。



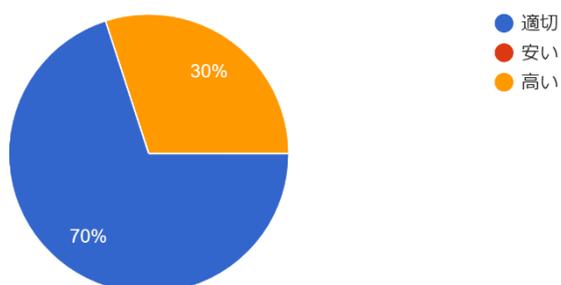
2. 今回のコースは COVID-19 の影響で通常とは異なるスケジュールになりました。開講期間（2020年11月～2021年2月）についておうかがいします。1つ選択してください。



「期間が長い」「期間が短い」を選択された方におうかがいします。どのくらいの期間が適切ですか。

- ・ 1か月

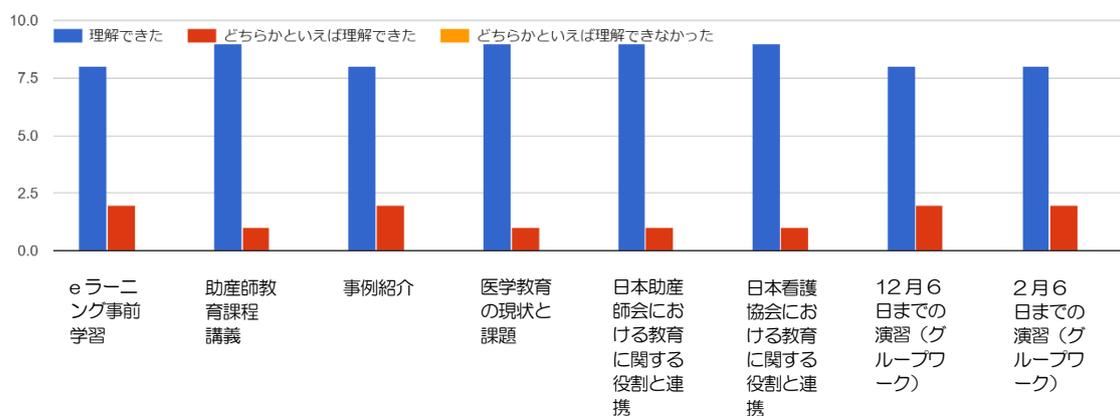
3. 受講料についておうかがいします。1つ選択してください。



「安い」「高い」を選択された方におうかがいします。あなたが考える適切な受講料を記載してください。

- ・ 資料の印刷等はすべて自分、資料が届くのも直前、GW 発表資料は最終報告会まで事前配布なし、等が理由です。金額は、オンラインの場合は 3 分の 1 くらいでもよいのと思いました。
- ・ 15,000 円
- ・ 10,000~20,000 円

4. 講義内容についておうかがいします。講義内容ごとにご自身の考えに当てはまるものを 1 つ選択してください。



5. 中間報告会の時期について、ご自身の考えに当てはまるものを 1 つ選択してください。



6. 中間報告会の運営についてご意見がありましたら記載してください。

- ・ 第 1 回のオリエンテーションで、FS のスケジュールと中間発表までの目安（浅見先生のオリエンテーションスライド）についてのご説明があったと思いますが、この資料も添付資料としてお送りいただくとよかったと思います。初回の GW より作業スケジュールをグループメンバーで計画するときこの資料が必要となりました。
- ・ 発表順等も事前に説明があつてよかった。2/6 の報告会の進め方がよくわからなかった
- ・ 発表時間等の詳細など、当日の流れを事前にご提示いただくと大変助かります。

- ・ 今回 ZOOM でのグループワークを行ったが、慣れるまで多少大変でした。でも、ZOOM を行うことで、グループワークの時間調整が行えました。
- ・ 時間外グループワークが必要となるため、研修日程を 1 日にして半日グループワークの時間として設定してほしい。
- ・ グループによって差はあると思いますが、最低限ここまでは示すようにと伝えていただけたので、それに向かって取り組みました。中間報告会でもほかのグループの資料があったら良かったと思います。

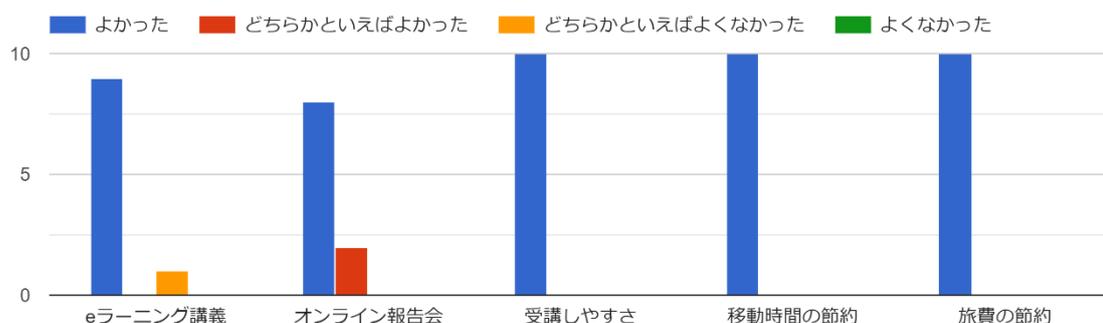
7. 最終報告会の時期について、ご自身の考えに当てはまるものを 1 つ選択してください。



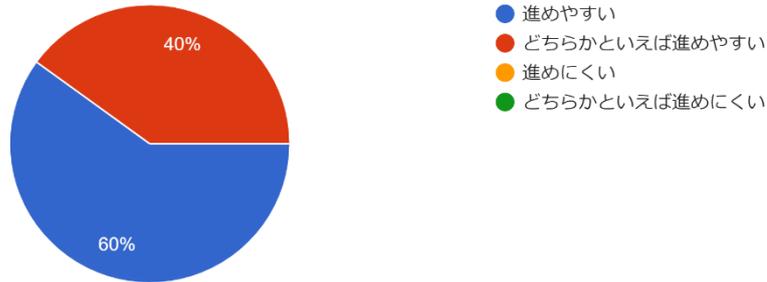
8. 最終報告会についてご意見がありましたら記載してください。

- ・ 発表順や発表資料を事前に提示してほしい。発表内容を事前に確認しておいた方が時間超過につながらずディスカッションの時間をとれるのではないかと思います。
- ・ 発表時間等の詳細など、当日の流れを事前にご提示いただくと大変助かります。
- ・ 時間外グループワークが必要となるため、研修日程を 1 日にして半日グループワークの時間として設定してほしい。
- ・ 1 グループの持ち時間や発表時間の目安を示していただいた方が、時間管理しやすいかと思いました。特に、発表時間は事前を示していただくと準備ができると思います。

9. オンライン開催についておうかがいします。各項目にご自身の考えに当てはまるものを 1 つ選択してください。



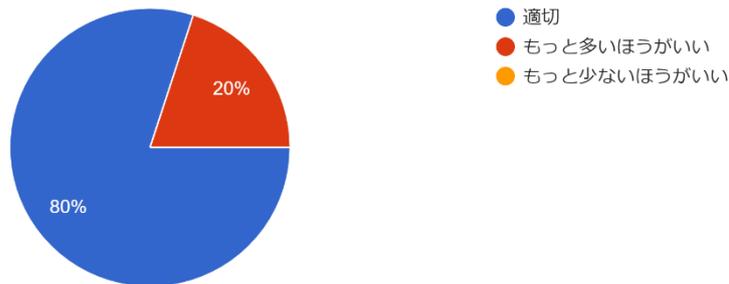
10. Zoomによるグループワークについてご自身の考えに当てはまるものを1つ選択してください。



「どちらかといえば進めにくい」「進めにくい」を選択された方におうかがいします。あなたが考える「進めにくさ」の原因を記載してください

- ・ 通信状況

11. グループワーク時のファシリテーターとの関わりの頻度についておうかがいします。ご自身の考えに当てはまるものを1つ選択してください。



「もっと多い方が良い」「もっと少ない方が良い」と答えた方におうかがいします。ご自身が考える適切な回数とその理由を記載してください。

- ・ 意見を伺うのに、タイミングが難しかった
- ・ 後半は、どのように進めるかをグループで理解して作業できたと思う。しかし最初の方は、方向性を示していただけると進めやすかったと思う。

12. コロナ禍収束後の研修方法についておうかがいします。ご自身の考えに当てはまるものを1つ選択してください。



13. 「ハイブリット開催」を選択された方におうかがいします。希望される対面講義の内容を記載してください。

- ・ 発表会是对面で集合して質疑をすすめ、教員同士の交流を深めてもよいと思いますが、講義を行う際は、オンラインでよいと思いました。また、移動に時間がかかる地域に住んでおりますので、オンライン講義であるからこそ、参加しやすいという利点がありました。グループワークについては、ZOOM会議のほうが、資料を画面に映しながら、話を進められるという利点があるように思いました。対面式の集合研修GWの場合、これまでの参加経験ですと、各自の手元資料をのぞき込んだり（資料なしで相手の説明を聞く場合に何度も確認しなおしたり、手書きでとったメモを清書しなおす時間が発生する）、コピーを取ったりしないといけない時間が発生しておりました。オンラインのほうが作業効率が良く、資料を各自の画面上で見ながら話すことができ、資料に意見をすぐに修正できる、書き込めるという利点があるので作業しやすかったように思います。
- ・ 講義やGWはオンラインでもよい、発表は対面の方がよい、でも、資料は画面で見れた方がよい。人と人との交流という意味で対面であればよく、研修自体はオンラインでも特に困らない。
- ・ 一度は参加メンバーに会い、直接対話できる機会があると素敵だと思いました。講義はオンラインでも構いません。
- ・ 助産師教育課程
- ・ 基本的には対面で受講したいが、スケジュールにより移動時間など考えるとハイブリッドであることは受講しやすい。講師の方が受講生の参加や反応を求めたい場合は、対面がいいし、対面の方が自分を表現できる。
- ・ 自宅から開催地が遠いため、対面式の会場に行けないことが多いことを考えると、受講を躊躇してしまいそうです。

14. 全国助産師教育協議会ファーストステージ研修「助産師教育課程」にご意見やご要望、感想がございましたら記載してください。

- ・ カリキュラムの構成を理解することによって、これまで自分の受け持つ講義に限定していた視点が、DP、CP、APの視点で教育全体の構造から俯瞰的に設計する視点を持ち考えられるようになったと思います。新カリキュラムについてもちょうどう検討している時期でしたので、これからの助産師教育やカリキュラム設計について、考え直す貴重な機会となりました。引き続き、助産師の教育についてはFSで理解を深め、助産師養成のための教育設計や教育の質について考えていきたいと思っています。
- ・ 1回目のオリエンテーションでの全体スケジュールの提示について資料があればなおよかった。正規の時間以外のGWがまあまあ必要であったが、これはオンラインだからこそ調整してできたと思う。有意義な研修となりました。今後もよろしくお願いいたします。

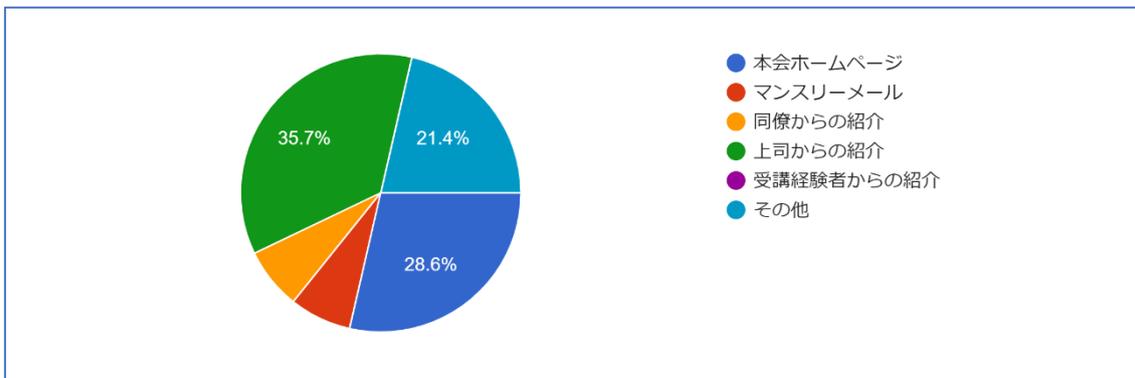
- ・ 講師の先生方、ファシリテーターの先生方、そして何よりも素敵なグループメンバーに恵まれ、オンラインながらも貴重な学びの機会を頂き、ありがとうございました。細やかなご配慮を頂いたため、楽しく参加することが出来ました。
- ・ 事務局へ ZOOM の方法や研修で分からない事を対応して頂いて良かったです。グループワークでの確認作業が多かったです。
- ・ オンラインだからこそ参加できました。ありがとうございました。
- ・ Zoom でのグループワークは不安がありましたが、回を重ねることにより、他のメンバーとの交流もできて、私にとってはとてもいい経験となりました。ファシリテーターの先生方にも、的確なコメントをして頂けて良かったです。ありがとうございました。

2) 2020年度 ファーストステージ研修助産師教育方法

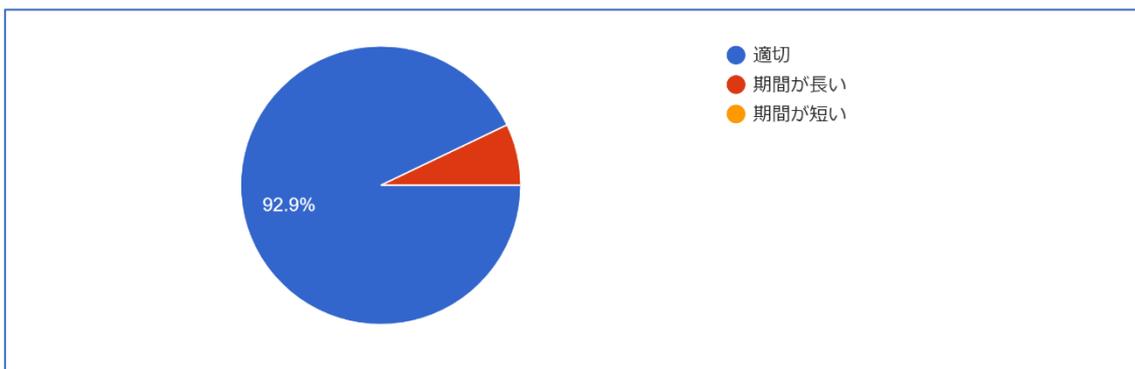
研修終了後アンケート結果報告

(16名中14名回答)

1. 研修の開催をどこで知りましたか？1つ選択してください。(14件の回答)



2. 開催時期(2021年2月~5月)についてお伺いします。1つ選択してください。(14件の回答)

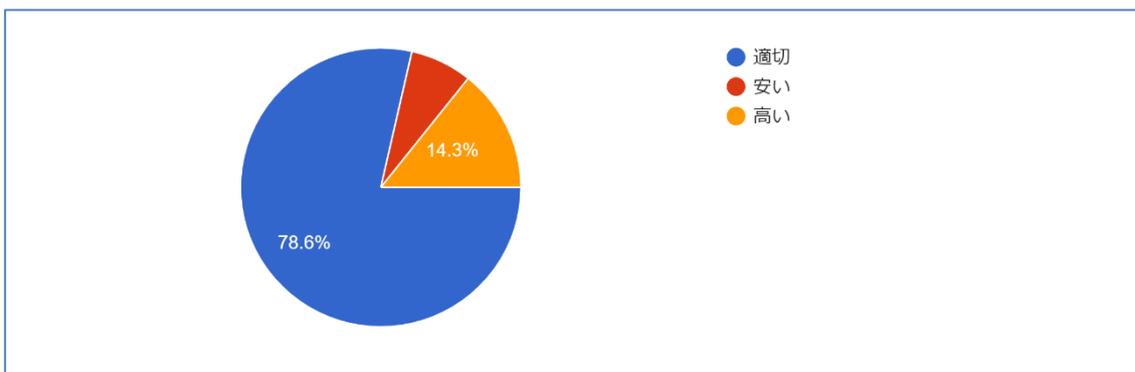


「期間が長い」「期間が短い」を選択された方にお伺いします。どのくらいの期間が適切ですか。

(1件の回答)

- ・ 所属施設の助産師課程が1年教育のため、年度末と年度の始まりの両方にかかってしまったので、少し調整が必要でした。

3. 受講料についてお伺いします。1つ選択してください。(14件の回答)

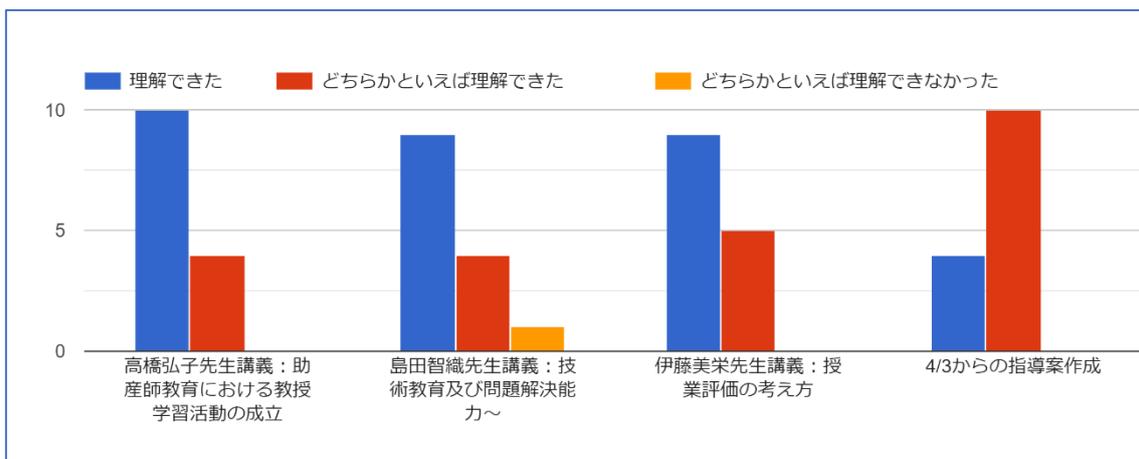


「安い」「高い」を選択された方にお伺いします。あなたが考える適切な受講料を記載して下さい。

(3件の回答)

- ・ 内容が濃いので、安いと感じましたが逆に高いと参加出来ませんので、講師の先生には申し訳ないですがこの価格のままが有難いです。他の人にも勧めやすいです。
- ・ 研修の質を保つために必要な金額だと思います。次の演習とあわせて5万円以内であると、もっと多くの人が参加しやすくなると思いました。
- ・ アドバンスの教員区分は、研修が多く出費大変。

4. 講義内容についてお伺いします。講義内容ごとにご自身の考えに当てはまるものを1つ選択してください。



5. 助産師教育方法論の講師にご意見・ご要望・ご感想がありましたらご記入ください。

(11件の回答)

- ・ 先生方には身の丈ということを教えていただいたように思います。指導案に個人的なご指導を頂きたかったなと思います。オンラインでも十分先生方の迫力を感じましたが、対面で受講できたらもっと感銘を受けたのだらうと感じました。ありがとうございました。
- ・ 毎週、平日が同じ曜日になってくると、どうしても参加しにくくなりますので、可能であれば平日は曜日をずらしていただければと思います。土日は、私としては参加しやすく助かりました。参加者同士の関係性が最後にやっとできてきたので、1人ずつ作成の前にグループで1つ指導案を考える時間などがあった方が、色々な会話がはずみ、皆が考えていることが共有しやすいと思いました。
- ・ コロナ禍におけるオンライン開催は、臨床から離れられない立場の人にとって参加しやすかったと思いました。受講生同志の交流できる機会（ブレイクアウトルームなど）がもっとあると良いと思いました。有難うございました。
- ・ これまで学んでこなかった知識、最先端の教育、今後必要とされる助産師教育等、本当に様々な視点から学ぶことができ、そして先生方の熱い助産師教育を感じる事ができました。さらに、現在自分が行っている教育を振り返り、整理する良い機会となりました。後半の

指導案作成の演習については、4月になり始めて課題が示されたかと思いますが、科目の初めに示していただき、それを踏まえて講義で学びながら準備できたらよかったのかもしれないと感じました（おそらく自分の技量や準備不足もあると思いますが）。提出が8月末ということで時間はありますが、科目開始時に受講生へのこの科目の全体像や達成目標を伝えていただけると大変ありがたいと感じます。講義や演習の中で、様々な方と情報共有できる時間が持ててとても良かったです。ありがとうございました。

- ・ 助産師教育を考え始めて間もなく、教員の仕事も始まり同時進行が難しかったです。年齢がだいぶたってからの、新しい環境でしたが助産師の歴史、教育の変化、現在の助産師活動また、これからのビジョンを知ることができました。臨床・教育・研究と分野が分かれています。助産師の根本を考える時間となりました。今後自分の助産師としての活動や意味、教育現場で伝えられる事は何なのか、常に問いかけていきたいと思っています。ありがとうございました
- ・ 先生方はそれぞれの立場から講義いただき、大変勉強になりました。指導案発表の際に、個別にコメントしていただけるとよりありがたいと思った。指導案発表の際に、「テーマ」が講師の先生方に認めてもらえないとコメントをもらえないように感じた。
- ・ 今回の方法論の研修で最後の指導案の作成まで受講してみて、これまで立ててきた授業の計画は、教員目線で作成しており、学生さんがどのように学習し、どのように成長していくのか、どうなってほしいのか、という視点で目標を設定できていなかったように思います。先生方のご講義の中で、基礎教育の段階から、臨床で実践する人を育てていることにつながっていくのを実感することができました。また上司と大学の母性看護学、助産学の教育で大切にしたいこと、それぞれの授業の目標などについて話し合う機会が増えました。今後も研修での学びから自分の授業設計を見直して、実際の教育に活用していきたいと思っています。
- ・ 授業以外でも資料提供などご対応頂きまして、誠にありがとうございました。先生方の指導感や実際の経験を教えて頂けたことで、難しく感じる内容を少し理解できました。個別指導や全体へのコメントを頂ける時間が少ないことが少し残念でしたが、先生方に直接ご指導頂けたことに感謝いたします。
- ・ 助産師の教育方法論について具体的に学ぶ機会がなかったので、このような機会があることに大変感謝しています。理解の度合い、自身の出来はどうあれ、まずはこうあるべきが見えたこと、実際に様々なテーマと指導案に触れ学びを深めることができたことは貴重な時間となりました。この学びを日々活かしながら研鑽していきたいと思っています。ありがとうございました。

- ・ 自らが生徒になって学ぶ経験を通して、講義のあり方を考えることが出来た。緊張感を長時間持続させ、集中して授業に取り組むことの難しさも分かった。知らない言葉、理解できていない概念がたくさんあり、学び続ける必要性を実感した。
 - ・ ご多忙な中、著明な先生方に講義時間を作っていただき感謝の気持ちでいっぱいです。講義終了後に湧き出た質問に対しても、ご丁寧に返答をいただけたことは、励みになりました。そして、講義前には知らなかった言葉・教育方法を学び、それをすぐ実践できるような講義内容・動画を準備してくださったのは、とても有意義な時間でした。未熟な教員である自分にも出来る事はあるのだと感じたのは、島田先生が教えてくださった「学生の変化・成長を評価する」という視点です。自分らしくいようと思うことが出来ました。学生の成長に関わる教員という仕事を楽しみ、自分も成長していけるよう努力し続けたいと思います。
6. 全国助産師教育協議会ファーストステージ研修「助産師教育方法論」にご意見やご要望、感想がございましたらご記入ください。(9件の回答)
- ・ 毎日仕事に追われる中での参加でしたので、指導案作成も無計画でした。せっかくグループを作成していただいたのですが、当日は個人作業に追われることとなりました。他の参加者もそうだったのかもしれませんが、指導案発表後に講義とは別枠で zoom ミーティングを行った際、オンラインではノンフォーマルな場が少ないことに気づきました。またその時間が学習効果を高めることも実感しました。もしオンラインが続くようであれば、グループワークの時間を増やしていただけないかと思いました。
 - ・ 対面式ではなく、慣れない ZOOM での参加でした。他の教員と話せる時間があつたので良かったです。
 - ・ 研修の到達目標が明確に示されていないと感じた。ポスターにはあつたが内容に合っているのかわからなかったし、説明がなかった。先生方から求められているものがわからない。研修の課題(指導案を3つ作成すること)の説明がもっと早い段階であると、そのつもりで準備しながら日々を過ごせた。4/29 から 5/27 までが忙しすぎた。前半の3人の先生の講義は公開授業も含まれており、GW などあまりできなかったのも、後半の指導案作成の前にオリエンテーションを入れ、アイスブレイクを含め、課題説明(本研修の到達目標の説明も含む)をし、後半がスタートできれば、もっとよくなるとおもう。オンラインでの初めてのファーストステージ研修「助産師教育方法論」であつたと思うが、GW の時間が少なく、また、指導案発表の際の質疑の時間が短い(発表者が超過したのもいけないが)ため、なかなかディスカッションが発展しなかったように思い残念。実習の指導案の「テーマ」選びについて、事前に先生に相談したものを発表しても、その他の先生からはそのテーマ?の様な感じを受け、恐縮してしまった。オンライン研修は、ちょっとした雑談ができず、ちょっとした質問ができないのが難点だと思った。まとめの日の学びの共有の時間はとても良かった。

- ・ 課題の提出を知らせていただくのが後半からになったのですが、最初の段階で課題や作業スケジュールのガイダンスをしていただけると、仕事との調整がしやすかったように思います。
- ・ 先生方の講義はとても興味深く、楽しく学ぶことができました。今回は手探りで指導案を作成したため、メンバーや先生方の意見（自身や他者作成の指導案に対するコメント）に触れる機会がもう少し長いと嬉しいなと思いました。授業時間外にはなってしまいますが、一つの指導案に対して皆で意見を出し合って作業することで、具体的にイメージをすることができたことがとても良い経験となりました。最後の発表会のように、学生からのコメントだけでなく、必ず先生方からのコメントも頂ける時間があると、遠慮なく質問や意見も伝えやすいと思いました。また、発表を聞く際に手元に資料があると理解が深まり、ありがたかったなと思いました。今回先生方をはじめ、受講生の皆さま方から得た学びを次につなげていきたいと思います。貴重な学びの機会を頂きまして、誠にありがとうございました。
- ・ 教育方法演習も受講したい思いはありましたが、開催の時期的な課題から断念しました。また機会がありましたらよろしく願いいたします。
- ・ いつも丁寧にご対応いただき、安心して受講できました。オンラインでなければ参加できなかったかもしれません。貴重な機会を頂きありがたかったです。
- ・ オンラインで実施していただくことで、本研修に参加することができました。次のステップには実習指導の関係上参加することが出来ず、残念です。そこで感じたことですが、本研修も、毎年同じ時期に開講ではなく、時期をずらしていただけると、もっと参加希望される方が参加できるのではないかと思います（例年違う時期であるならば、すみません。おまけに講師の先生方のご都合は配慮できていない意見ですが、素直な気持ちです）。他県の先生方との交流は本当にありがたい出会いでした。この出会いを大切にしていきます。いつも丁寧なご対応をしていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。
- ・ メール連絡等を含め大変お世話になり、ありがとうございました。内容についてどちらかといえば理解しましたが、なかなかじっくり考える自己学習の時間が取れず（購入した本も読めておらず）、現時点では消化しきれていないというのが実感です。教員を続けていけるのか不安にも思いますが、教育を考える上でのヒントのようなものは得られたように思いますので、研修の内容を心にとめながらやっていきたいと思います。

(4) 演習の成果

ファーストステージ研修 助産師教育課程 2G 成果物

2020年度 全国助産師教育協議会 ファーストステージ研修「助産師教育課程」

最終報告 (2021.2.20)

2G：川村美香子 小島さやか 笹川恵美 瀬谷絵莉佳 徳武千足

1. 仮想の教育機関の特性

1) 地域の特性

A地域は、大都市圏および都市圏の中心市周辺市町村にある、農業、工業を産業とした住宅地域である。外国人労働者の増加、高齢者人口の増加が著しい。2次医療圏にあり、医師および看護職不足が著しい。周産期に関する特性は、地域周産期施設はあるものの、機能せず、母体搬送は中心市にある周産期施設へヘリ搬送となる。周産期に関する統計は、合計特殊出生率以外は全国平均を上回り、この現状は近隣県も同様の問題を抱えている。A地域の医療政策として、地域の母子保健事業の強化とともに、地域に根差した保健活動のできる看護職人材育成が必要と考えている。

2) 設置主体

私立大学

3) 教育機関の特徴

本部は都心部にある明治期の創設の女子大学。幼稚園から大学院までの教育機関を持つ。家政学部・文学部・人間社会学部（教育・心理・社会福祉系）・理学部を有している。

創設者は信念、自覚性、共同性を理念とし、先ず人としての教育を大事にした。創設時に看護学部の設置を考えられていた。B大学では、生命と他者性の尊重、現代の基本的価値に根ざして、グローバルな、また身近なコミュニティにおいて、リーダーシップや独創性を発揮できるよう教育・研究活動、社会貢献活動に努めている。

近年の社会の動向を踏み、地域創生と自立した女性教育の新たな一環として看護学部を設置し、学士課程で助産師教育課程の設置をすることとした。

2. 助産師教育の理念（卒業生の特性）

1) 建学の精神

温かく優しく 自他ともに愛をもって 道を切り拓く

2) 大学の理念

① 建学の精神に基づき、人間を信頼し全ての人に対して温かい愛情を持つ人間性と感性を育み、多様な生活の営みと価値観を有する人間を理解できる人材を育成します。

② 現代の基本的価値に根ざして、グローバルな、また身近なコミュニティにおいて、リーダーシップや独創性を発揮でき、社会貢献できる人材を育成します。

3) 助産師教育の理念

① 人間を尊重・信頼し、全ての人に対して温かい愛情を持つ人材を育成します。

② 地域における母子保健の課題や、現代社会が抱える様々な問題に関する専門的知識、技術を身に付けケアする能力を養います。

③ 自律性・主体性を育み、自ら学び続ける姿勢を育成します。

3. 3つのポリシー (DP)

DP 1. 人間の尊重と信頼

助産の対象である母子と家族・集団およびコミュニティの主体性を尊重し、愛をもって、対象と良好な関係を築くことができる。

DP 2. 専門的な知識と技術

専門的な知識と技術を活用し、また資源を十分に活用して母子と家族にとって必要な支援を適時的かつ継続的に提供できる。

DP 3. 多職種連携

母子を取り巻く人々と協働し、助産の専門的立場からリーダーシップおよびメンバーシップを発揮できる。

DP 4. 郷土愛、地域への社会貢献

助産の対象者が生活する地域の特徴を理解し、対象者が健康的な生活を送れるよう支援をともに考える能力を培うことができる。

DP 5. 将来のビジョンをもって

助産実践の改善・向上を目指して、母子を取り巻く環境、国内外の助産の歴史と最新の動向に関心を持ち、生涯に渡って自己研鑽をし続けることができる。

3. 3つのポリシー (CP)

CP 1.

教育理念・目的に基づき、豊かな感性と温かい愛情を有する人間性を涵養し、倫理観をもった専門職業人として育成する科目を配置する。

CP 2.

助産活動の場において、対象を全人的に捉えながら切れ目のない支援を提供する基本的な能力を育成する科目を配置する。

CP 3.

社会資源の活用および対象を取り巻く人々との協働、助産の専門的立場からリーダーシップおよびメンバーシップを発揮するための能力を育成する科目を配置する。

CP 4.

助産活動をする地域の特性や国内外の最新の動向を捉えながら、生涯にわたる健康課題の解決策を対象とともに柔軟に探求できる能力を育成する科目を配置する。

CP 5.

助産に関わる課題や政策、管理的な側面に関心を持ち、助産の専門的立場から改革する意義を見出し、助産学を研究するための基礎的な力を育成する科目を配置する。

3. 3つのポリシー (AP)

AP1.

助産師としての活躍をつよく希望する者。

AP2.

本学の理念に賛同し、自らが目指す助産師像にむけて、意欲的に学習し続ける意志がある者。

AP3.

人々とともに学び、支えあい、自身の健康的な生活を管理できる者。

AP4.

助産学の専門的な知識や技術を修得するための基本的な能力を兼ね備えている者。

AP5.

多様な価値観に対して柔軟に対応でき、自らの意志を他者に伝えるための資質を兼ね添えている者。

4. 指定規則との対比表

読み替えなし

5. カリキュラムリスト (進捗表資料あり)

科目	科目 (必修：読み替えなし)	1年後期から開講する助産師課程に関連した選択科目)
基礎助産学(7)	助産学概論(1)	
	周産期医学(1)	
	ウイメンズヘルス(1)	
	新生児学・乳幼児学(1)	
	周産期の基礎科学(1)	
助産診断・技術学 (10)	助産学ゼミ(2)	
	助産診断学Ⅰ(1)	
	助産診断学Ⅱ(2)	
	助産診断学Ⅲ(1)	
	助産ケア学Ⅰ(1)	
	助産ケア学Ⅱ(2)	
	助産ケア学Ⅲ(2)	
	助産ケア学Ⅳ(1)	
助産管理 (2)	助産管理学Ⅰ(1)	
	助産管理学Ⅱ(1)	
地域母子保健 (2)	地域助産論(1)	
	多職種連携助産支援(1)	
助産実習 (11)	助産学実習Ⅰ(9)	
	助産学実習Ⅱ(1)	
	多職種連携実習(1)	

※周産期の生命倫理(1)
※助産(産育)の文化(1)
※助産(家族)と社会(1)
※助産(性)と法律(1)

5. カリキュラムリスト：基礎助産学 (6)

科目	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
基礎助産学(7)						
助産学概論(1)	助産活動の基本となる助産の概念、助産師の定義と業務および責務、倫理と研究、母子保健の動向、助産の歴史と文化、教育・研究について学び、助産活動の基本的姿勢を理解する。これらすべて国内外を視野に入れ概説していく。	○	◎	◎	◎	◎
周産期医学(1)	生殖系の形態と機能、性周期、性分化、妊娠・分娩・産褥の生理的变化について基本的知識を習得する。		◎			
ウイメンズヘルス(1)	女性のライフサイクル各期における健康課題、各期特有な疾患、健康に影響を与える要因、心理および社会的側面に与える影響について理解し、生涯にわたる支援のあり方を考察する。		◎			
新生児学・乳幼児学(1)	新生児学・乳幼児学についての基本的知識を習得する。		◎			
周産期の基礎科学(1)	周産期における薬理学および栄養学について基礎的知識を習得する。		◎	○		
助産学ゼミ(2)	学生の興味関心をもとに学習をすすめ、プレゼンテーション、ディスカッションを通し、テーマおよび自他への理解を深める。また、興味のある学会へ参加する。	◎	○	△		◎

自校の特徴ある1科目のシラバス：「助産学ゼミ」のシラバス 別途資料あり

卒業論文：学部で必修2単位（4年次通年）、助産学ゼミ3年次後期

5. カリキュラムリスト：助産診断・技術学（10）

	科目	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
助産診断・技術学 (10)	助産診断学Ⅰ(1)	女性のライフサイクルにおける健康・疾病・障害に関する観察力、判断力を養うために解剖・生理、疾患と治療、遺伝、感染症、生殖補助医療について学ぶ。		◎			○
	助産診断学Ⅱ(2)	助産の実践に必要な妊娠・分娩の基礎的知識と正常経過、正常からの逸脱・ハイリスク妊娠・分娩の診断と治療を学び、臨床判断能力を養う		◎			○
	助産診断学Ⅲ(1)	助産の実践に必要な産褥・新生児の基礎的知識と正常経過、正常からの逸脱・ハイリスク産褥・新生児の診断と治療を学び、科学的根拠に基づいた臨床判断能力を養う		◎			○
	助産ケア学Ⅰ(1)	女性の家族のライフサイクル各期の性と生殖に関連した健康を理解し、生涯にわたる健康教育を实践する力を養う	△		○		◎
	助産ケア学Ⅱ(2)	妊娠・分娩期の助産過程の展開、分娩介助技術の理論と技術の学習を通して、助産診断力と助産技術の修得、対象のセルフケア能力を高める援助の理解を目指す		◎		△	
	助産ケア学Ⅲ(2)	産後4か月までの母子の助産診断とケア、教育・指導・相談活動の理論と集団指導技術を学び、他職種と連携して母子の健康の継続的支援を行う方法を習得する		◎		△	
	助産ケア学Ⅳ(1)	ハイリスク妊娠・分娩・産褥・新生児の助産ケアおよび医療的処置に関する知識と科学的根拠に基づいた最新の技術を習得し、正常からの逸脱・緊急時の臨床判断能力を養う		◎		○	○

5. カリキュラムリスト：助産管理（2）

	科目	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
助産管理	助産管理学Ⅰ(1)	助産業務管理に必要な知識や、法的範囲と責任を学び、助産師の役割を理解する。助産院・診療所・病院における助産管理を比較・検討することで、地域特有のニーズやケアの受け手から求められるサービス提供のあり方、ケアの受け手とのエンパワーメント、他職種との連携について習得できるようにする。		◎	◎	◎	
	助産管理学Ⅱ(1)	周産期医療の質と安全を保持するための病院・地域との連携による周産期管理システム、周産期におけるリスクマネジメント、災害・感染症発生時の助産ケアの視点から助産管理の理解を深める。		◎	◎		

5. カリキュラムリスト：地域母子保健（2）

	科目	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
地域母子保健	地域助産論(1)	地域母子保健活動における関連法規を学び、母子保健活動の現状と母子保健ニーズについての理解を深める。妊娠前から産後4ヶ月までの母子の継続したケア、育児不安、産後うつ、乳幼児虐待等に対する支援や助産師の役割について考察する。また、母子を中心とした集団への働きかけや海外在住の女性や在日外国人への助産ケア、災害時における支援について理解を深める。				◎	○
	多職種連携助産支援(1)	育児不安、産後うつ、乳幼児虐待、プレコンセプションケア、更年期障害等の女性のライフサイクルで生じる健康課題に対する関係職種それぞれの役割について理解を深める。事例に対する多職種間でのディスカッションを通して地域で生活する女性とその家族への支援のあり方を検討する。			◎	◎	○

5. カリキュラムリスト：助産学実習（11）

	科目	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
助産学実習 (11)	助産学実習Ⅰ(9)	病院での分娩介助を中心に、妊産婦と新生児に対する助産診断・ケアについて学ぶ。また妊娠前から分娩後4か月までの母子を継続して1例受けもち、継続的支援を学ぶ。ハイリスク妊産婦・新生児への診断・ケアについては、総合周産期母子医療センターで実習を行う（該当科目：周産期医学Ⅰ、新生児学・乳幼児学、周産期の基礎科学、助産診断学Ⅱ・Ⅲ、助産ケア学Ⅱ・Ⅳ） ・分娩介助（10例程度） ・継続事例（1例：妊娠中～4か月まで） ・ハイリスク産婦・新生児（産科病棟及び新生児病棟の見学実習（臨床講義含む））		◎	○		◎
	助産学実習Ⅱ(1)	病院・助産所・地域（市町村）における助産業務の実際と管理、地域における母子保健活動や多職種連携について学ぶ。さらに助産師の自律と責任について学ぶ。 （該当科目：助産診断学Ⅱ、助産ケア学Ⅲ、助産管理学Ⅰ・Ⅱ、地域助産論、多職種連携助産支援） ・分娩介助実習施設の助産管理・助産所での見学実習 ・市町村の新生児訪問・乳児健診 ・乳児院、母子健康包括支援センター、児童虐待防止センター、配偶者暴力相談支援センターなどでの見学・実習	○		◎	◎	○
	多職種連携実習(1)	女性及びその家族、また中高生を対象にした健康支援方法について理解し、グループで集団を対象とした保健指導や健康教育を企画・実施する。 （該当科目：ウイメンズヘルス、助産診断学Ⅰ～Ⅲ、助産ケア学Ⅰ・Ⅱ、地域助産論、多職種連携助産支援） ※保健師課程との共同運営（他学部の学生も履修可能とする。助産師課程・保健師課程の学生がリーダーシップを取り進めることとする） ・地域における母親学級（両親学級） ・中高校生への性教育	◎	◎		○	

6. 本校の特徴ある1科目シラバス（別途資料あり）

基礎助産学：「助産学ゼミ」2単位

- ・複数の大学のシラバスを参考に授業目的、概要、計画を検討
- ・内容に自由度を持たせることを意識して作成
→海外交流、学会参加など個人の関心に沿って取り組む
- ・単位認定、基準について検討
→割合（点数配分）も定めた
→評価の一つとして、建学の精神に対する自己の解釈をレポートにまとめ、提出させることにした。
- ・科目責任者
→責任者はひとり。担当教員は卒研のように複数人で担当する。

7. 選抜試験の方法・養成数など

項目	内容
1) 看護師課程	学生数：80名/1学年 看護師課程履修の進捗：3年次前期に領域実習終了
2) 教員数	母性（6名）：教授1名、講師1名、助教2名、非常勤2名 助産（6名）：教授1名、准教授1名、助教2名、非常勤2名 ※修士課程はなし 助産学ゼミには母性の教員も協力する 学内の他学部の教員を活用する
3) 助産師課程	
①選抜時期	3年次前期終了時（8月ごろ）
②選抜条件	3年次前期までの必修科目を履修していること
③選抜方法	学力試験（基礎看護学、母性看護学）記述式、個人面接、プレゼンテーション
④提出書類	志願書、志願理由書（1200字程度）、成績表 自己アピール書（活動報告、プレゼンなど）
⑤養成数	8名程度

8. 「愛」(慈愛)の評価 ～大学理念～

	内容
ねらい	ケア提供者の内面(対象者・関係職種・仲間との関りを通じたモチベーション向上・双方向のエンパワメントなど)の変化を評価する
評価時期	①助産師課程選考試験時 ②中間評価時(6～8月) ③卒業前
評価内容	・面接(プレゼンテーション内容) ・レポート ～助産観の変化をとらえる～ ・ポートフォリオ ・グループワーク/ディスカッション内容および態度

資料リスト

1. 基礎助産学「助産学ゼミ」シラバス
2. カリキュラムリスト
3. カリキュラム進捗表

ご清聴ありがとうございました



		科目概要					DP1	DP2	DP3	DP4	DP5
科目	科目概要	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5					
基礎助産学(7)	助産学概論(1)	○	◎	◎	◎	◎					
	周産期医学(1)		◎								
	ウイメンズヘルス(1)		◎								
	新生児学・乳幼児学(1)		◎								
	周産期の基礎科学(1)		◎	○							
	助産学ゼミ(2)	◎	○	△		◎					
	助産診断学Ⅰ(1)		◎			○					
	助産診断学Ⅱ(2)		◎			○					
	助産診断学Ⅲ(1)		◎			○					
	助産ケア学Ⅰ(1)	△		○		◎					
助産診断・技術学(10)	助産ケア学Ⅱ(2)		◎		△						
	助産ケア学Ⅲ(2)		◎		△						
	助産ケア学Ⅳ(1)		◎		○	○					
	助産管理学Ⅰ(1)		◎		◎	◎					
助産管理	助産管理学Ⅱ(1)		◎		◎	◎					

講義名	助産学ゼミ		
講義開校時期	通年	講義区分	演習
基準単位数	2単位	時間	60
代表曜日	金曜日	代表時限	3・4限
対象学科・年次	3年次後期・4年次前期・後期		
必修/選択	必修		

担当教員		
職種	氏名	所属
教員	助産学 教授	看護学科

授業の目的・ねらい	学生の自主性を育む。 助産にまつわる課題と助産師の役割と責任について考える
授業概要	助産に関する自らの関心に基づき、テーマやトピックス（助産学の基本的概念・理念・歴史、国内外の母子保健の動向、プレコンセプションケア、ウイメンズヘルスケア、リプロダクティブヘルスケアなど）を設定・選択し、教員の助言を受けながら自由に課題を探求する。自己学習を土台に、抄読会や討議、制作物や論文の作成、学外研修、実験・実習等の多様な学習方式を取り入れ、多角的に課題を探求し、成果をまとめる。卒業研究において作成した研究計画書の内容によっては、その計画を進展させることも含まれる。また、学会参加や海外研修などを出席に置き換えることも考慮する（参加証の提示、レポート・プレゼンテーション）。
授業終了時の達成課題（達成目標）	助産領域の諸問題への関心を持ち、課題解決に必要な知識・態度を習得することができる。
キーワード	助産学、ウイメンズヘルスケア、リプロダクティブヘルスケア、プレコンセプションケア

授業計画

回	担当教員	内容
第1・2 回目 10月	助産師課程教員（教授・准教授・講師）	自身の研究テーマについて
第3・4 回目 11月	各担当教員	学習成果の報告会（4年生発表）
第5・6 回目 12月	各担当教員	学習成果の報告会（4年生発表）
第7・8 回目 1月	ゲストスピーカー（家政学部）	助産・女性・愛等に関連したテーマについて GW
第9・10回目 2月	各担当教員	3年生中間発表
第11・12回目 3月	ゲストスピーカー（文学部）	助産・女性・愛等に関連したテーマについて GW
第13・14回目 4月	各担当教員	抄読会・討議
第15・16回目 5月	ゲストスピーカー（人間社会学部）	助産・女性・愛等に関連したテーマについて GW
第17・18回目 6月	各担当教員	抄読会・討議
第19・20回目 7月	ゲストスピーカー（理学部）	助産・女性・愛等に関連したテーマについて GW
第21・22回目 8月	各担当教員	抄読会・討議
第23・24回目 9月	各担当教員	抄読会・討議
第25・26回目 10月	各担当教員	抄読会・討議
第27・28回目 11月	各担当教員	学習成果の報告会（4年生発表）
第29・30回目 12月	各担当教員	学習成果の報告会（4年生発表）

単位認定方法及び基準	抄読会や討議への参加度25%、発表25%、GW25%、成果物（レポート）25%として総合的に判断する。出席は3分の2以上を単位認定の前提条件とする。 なお、レポート課題は学習を通じて、建学の精神である、「温かく、優しく、自他ともに愛をもって道を切り開く」とはなにかを、自分の言葉でレポート1600～2000字程度にまとめる。
テキスト・参考文献	適宜紹介する
準備学習の内容	自分の興味・関心をもとに自己学習を行うこととする。
科目履修生・特別聴講性の聴講	不可
教職員授業見学	可

助産師課程科目進捗表（選抜時期：3年前期8月ごろ）

	科目	必修	選択	履修可能年次	1年次			2年次			3年次			4年次				
					前期	集中	後期	前期	集中	後期	前期	集中	後期	前期	集中	後期	集中	後期
基礎助産学	助産学概論(1)	○		2年次後半														
	周産期医学(1)	○		選考後														
	ウイメンズヘルス(1)	○		選考後														
	新生児学・乳幼児学(1)	○		選考後														
	周産期の基礎科学(1)	○		選考後														
	助産学ゼミ(2)	○		選考後通年														
	助産診断学Ⅰ(1)	○		3年次後期														
	助産診断学Ⅱ(2)	○		3年次後期														
	助産診断学Ⅲ(1)	○		選考後(3年)														
	助産ケア学Ⅰ(1)	○		選考後(3年)														
助産診断・技術学	助産ケア学Ⅱ(2)	○		選考後(3年)														
	助産ケア学Ⅲ(2)	○		4年次前期														
	助産ケア学Ⅳ(1)	○		4年次前期														
	助産ケア学Ⅳ(2)	○		4年次前期														
	助産ケア学Ⅳ(1)	○		4年次前期														
	助産管理学Ⅰ(1)	○		3年次後期														
	助産管理学Ⅱ(1)	○		3年次後期														
	地域助産論(1)	○		4年次前期														
	多職種連携助産支援(1)	○		4年次後期														
	助産実習	助産学実習Ⅰ(9)	○		4年次前期 4年次前期集中													
助産学実習Ⅱ(1)		○		4年次前期集中														
多職種連携実習(1)		○		4年次前期集中 4年次後期														

私立〇〇大学 保健医療学部 看護学科(3G)

大学概要 成果物I

設置主体:学校法人〇〇(私立大学) 地域:一地方都市(政令指定都市)

偏差値:50前後 学費年間 110万 助産コース学費 30万円

学生の属性:地元出身者7割程度 近隣の県出身者2割 遠方出身者1割

学部:医学部、保健医療学部(看護学科、理学療法学科、作業療法学科)、教育学部(臨床心理学 教育学科)

実習施設:〇〇大学医学部附属病院(3次救急指定病院)、近隣に分娩取り扱い病院・診療所(3~4か所)

有床助産所(2か所)、無床助産所(3か所)

大学の理念

地域社会に貢献し信頼される“実践的”な学問の追究とプロフェッショナルの養成

教育目標

自ら考え自ら学ぶ姿勢を身につけることで、他者への共感・他者との協調を実践し、広く社会に貢献できる人材の育成を目標とする。

1. 自ら学び、自ら考える(自立、自ら立ち、動ける、対話できる、学び続ける、探求創造思考)
2. 豊かな人間性(全人理解、一般教養、他との連携、チーム力)
3. 多様な社会への貢献(国際、地域、文化など幅広い視野)

保健医療学部 看護学科の概要

学士課程養成人数:看護学科I学年 80名、助産師コース 6名程度、保健師コース 12名

看護学科の理念

豊かな人間性とコミュニケーション能力を備え、深い教養と専門知識を有し、自立した実践力を持ち、地域社会に貢献し信頼される看護専門職を養成する

看護学科の教育目標

看護学科の理念をふまえた教育実践により、卒業時には次のような能力を有し、看護師、助産師、保健師として広く社会に貢献できる人材を育成する。

1. 自立した専門職として必要とされる基本的な知識や能力を身につけることによって、さまざまな課題に自信を持って取り組み、解決できる力を養う。
 2. 他者と適切に交流し、人への配慮・協働・連携できる力を養う。
 3. 自立した社会人として国際社会・地域に貢献するための知識や能力、素養を養う。
- 看護学科のアドミッション・ポリシー(入学者の受け入れ方針)

1. 高等学校における教科・科目を文理ともに広く学習し、高い基礎学力と論理的思考力を有していること
2. 対人支援のコミュニケーションのための基礎となる国語能力を有していること
3. 国際的な関心があり、英語の基礎的な能力を有していること
4. 他者を理解し、主体的に学習に取り組むことができること

看護学科のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

豊かな人間性とコミュニケーション能力を備え、深い教養と専門知識を有し、自立した実践力を持ち、地域社会に貢献し信頼される人材を養成するための教育課程を編成する。所要単位を修得することを卒業要件とする。また、すべての学生が看護師の国家試験受験資格を得られる教育内容を基本的構成とし、選択により助産師・保健師の受験資格も得られる。

1. 人間および健康と生命の尊厳に深い関心を持ち、看護に必要な専門的知識、基本的技術および論理的思考を身につけ、問題解決に向けての方略を選択できる能力を育成するための科目を配置する。
2. 自己の知識・行動・態度の客観的な評価に基づき課題を見出し、主体的・創造的に取り組むことができる能力を育成するための科目を配置する。
3. 医療・保健・福祉のチームにおける各専門職種の専門性および役割を理解し、コミュニケーション技法を用いて対象者および多職種との信頼関係を築き、専門職としての責任ある行動をとることができる能力を育成するための科目を配置する。
4. 多様な文化を持つ人々の生き方や価値観を尊重できる豊かな人間性を備え、広く社会に関心を持ち、それぞれの地域や国の文化を通して、医療・保健・福祉の課題と看護職者の役割を展望することができる能力を育成するための科目を配置する。

看護学科のディプロマ・ポリシー（学習評価・学位の授与方針）

1. 看護に必要な専門的知識および論理的思考を身につける。
2. 看護を提供するための問題解決に向けての方略を選択し実践できる。
3. 看護の基本技術を的確に実施できる。
4. 自己の知識・行動・態度の客観的な評価に基づき、課題を見出し、主体的・創造的に取り組むことができる。
5. コミュニケーション技法を用いて、対象者と信頼関係を築くことができる。
6. 医療・保健・福祉のチームにおける各専門職種の専門性および役割を理解できる。
7. 医療チームの中で他職種と有効かつ協力的にコミュニケーションをとり、専門職としての責任ある行動をとることができる。
8. 人間および健康と生命の尊厳に深い関心を持つことができる
9. 地域社会から国際社会に至る多様な文化を持つ人々の生き方や価値観を尊重できる豊かな人間性を備える。
10. 広く社会に関心を持ち、それぞれの地域や国の文化を通して、医療・保健・福祉の課題と看護職者の役割を展望することができる。

保健医療学部 看護学科 助産学教育課程の概要

理念 成果物2

助産コースの理念は、看護学の基礎的学力に基づき、豊かな人間性とコミュニケーション能力を備え、自立した実践力をもち、地域社会に貢献し信頼される助産師を養成する。

教育目標 成果物2

助産に関する専門的知識と基本的技術を教授し、人間の性と生殖に関する健康と権利を行使する人々に対して援助できる専門職アイデンティティを培う。地域社会に貢献できる人間性豊かな、生涯を通じて自己研鑽できる助産師を育成する。

教育体制

助産師コース教授(母性看護学と兼任)Ⅰ、准教授Ⅰ、講師Ⅰ、助教Ⅰ(正規雇用)、助手Ⅰ(非正規雇用)

アドミッション・ポリシー 成果物3

1. 助産師を志す明確な意志を有している人
2. 助産学を学ぶ上で必要な基礎学力と、看護学の基本的知識を備えている人
3. 協調性があり、他者とコミュニケーションがとれる人
4. 豊かな人間性と、看護を基盤とした倫理観を有している人
5. 社会に対し関心をもち、地域・国際的な母子保健や周産期医療に貢献しようと意欲のある人

カリキュラム・ポリシー 成果物3

1. 助産学、周産期医学に関する基本的な知識と技術獲得のために、助産実践力を育成するための科目を設ける。
 - ・周産期医学
 - ・助産診断・技術学Ⅴ (A.C)
 - ・医療遺伝学
 - ・生命倫理学
2. 母子や家族に寄り添い、妊娠から分娩、産褥までに必要な助産診断、助産技術が統合して学べる教育内容を設ける。
 - ・助産診断・技術学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅱ
 - ・助産診断・技術学Ⅲ、助産診断・技術学Ⅳ、助産診断・技術学Ⅴ
 - ・助産実習Ⅰ、助産実習Ⅱ、助産実習Ⅲ (A.C)
3. リプロダクティブ・ヘルスを基盤とした幅広い視野を身につけることができる科目を設置する。
 - ・助産実習Ⅴ (D.E)
 - ・リプロダクティブ・ヘルス論

4. 助産の意義や助産師の責任・役割に関する知識、母子の健康支援に向けた助産診断技術を体系的に学修するための科目を設ける。
 - ・助産学概論 (A.B.F)
 - ・医学プロフェッショナリズム論
5. 地域や施設における多様な母子への助産支援および助産管理を、学修するための科目を配置する。
 - ・助産管理 (B.E.F)
 - ・地域助産学
 - ・助産実習Ⅳ (地域母子保健) (C)
 - ・看護管理学
 - ・多職種連携論
6. 授業や実習での学びを最終的に助産学研究として統合し、助産師としてのアイデンティティの確立を促す
 - ・総合研究 (G)

(参考)

- A. 助産師として求められる基本的な資質・能力
- B. 社会・環境と助産学
- C. マタニティケア
- D. プレコンセプションケア
- E. ウィメンズヘルスケア (プレコンセプションケアを除く)
- F. マネジメント・助産政策
- G. 助産学研究

ディプロマ・ポリシー 成果物 3

1. 医学・薬学・看護学・助産学の知識に基づいたマタニティサイクルにおける母子及び家族の健康課題の診断と支援ができる。
2. 産む人のニーズを尊重した安全で満足な分娩介助ができる。
3. 女性のライフサイクル各期における健康課題に対する診断ができる。
4. 助産師の倫理的責務を果たすための倫理観が身についている。
5. 母子および家族の健康課題や母子保健を取り巻く課題を解決するために、保健・医療・福祉・行政との連携を図り、地域とつながる切れ目ない支援体制を計画できる。
6. 助産師として主体的に自己研鑽し続ける能力が身についている。

●助産師コース選抜試験の方法 成果物 8

実施時期:看護師教育課程の母性看護学関連(講義・実習)をすべて終了した3年次の12月に実施する。

対象:3 年前期開講の「リプロダクティブ・ヘルス論」「助産学概論」「地域助産学」を受講している者

GPA 3.0 以上(「優」以上 程度)＜学内選抜のみ、編入制度はなし＞

方法:300 点満点、上位 6 名の選出

① 志願理由書:50 点 テーマ「助産師を志願した理由と社会のニーズに応じた助産師としての活動の展望」

A4 2 枚(1,600 字)以内、内容の趣旨の正確さと文章が論理的で誤字脱字なく記載されているかで総合的に採点する<AP1、5>

② 個人面接:100 点 1 人 10 分面接、5 分評価

面接官:助産師コース教授 1、准教授 1、講師 1、他分野の教員(公衆衛生看護学) 1

テーマ「各分野の実習の学びを助産師としてどう生かしていくのか」

面接流れ

1) 志願理由は 1 分程度で簡潔に述べてもらい<AP1、5>、面接の本題に入る

2) 経験してきた実習で、どのように対象の方のニーズを把握してケアをしてきたのか、

印象に残っている 1 場面について話してください(母性看護学実習に問わない)

(ねらい) 実習の学びのアセスメントし言語化する能力を問う

主体的に取り組んだこと、印象に残っている看護ケア、アセスメントを問う内容

健康課題抽出根拠(対象のニーズの把握)<AP2、4>

実習中のコミュニケーション、問題解決の方法<AP3、4>

対象、グループメンバー、指導者、教員それぞれとの関係

③ 成績:100 点

「母性看護学実習」40 点「リプロダクティブ・ヘルス論」20 点「助産学概論」20 点「地域助産学」20 点

その時点での成績、演習・課題の評価、潜在的カリキュラム(学習態度)も含む

母性看護学実習の評価項目に、助産師コース選抜の視点を含める(カンファレンスの態度、時間管理等も含む)

④ 試験:50 点 範囲「母性看護学」「リプロダクティブ・ヘルス論」「助産学概論」「地域助産学」
助産師コース履修開始直前の基礎知識の確認

講義から時間が空いてしまい、学生が忘れていたが多いため

<参考>助産師コース AP

1. 助産師を志す明確な意志を有している人
2. 助産学を学ぶ上で必要な基礎学力と、看護学の基本的知識を備えている人
3. 協調性があり、他者とコミュニケーションがとれる人
4. 豊かな人間性と、看護を基盤とした倫理観を有している人
5. 社会に対し関心をもち、地域・国際的な母子保健や周産期医療に貢献しようと意欲のある人

●助産師教育の評価方法 成果物 9

1) 学修成果

①学生の動向

助産師コース修了 / 途中で辞退 / 休学 / 退学

②カリキュラム運用状況

計画(シラバス)通り講義・演習・実習の実施状況

③国家試験合格率

国家試験対策として、模試、補講、教員の個別フォロー(ゼミ生)の実施

④卒業後の進路(就職・進学率)

助産師としての就職先(大学所在県内・出身地・他)、助産師以外の就職
大学院進学、他

2) 教育評価

①各授業・実習の教員評価 他者評価

助産師コースの各選択必須科目の成績評価(総括的評価)

※分娩介助に関する技術テスト分娩介助演習の最終技術テストとして行うため科目内評価

②卒業時到達度評価 自己評価

厚生労働省「助産師に求められる実践能力と卒業時の到達目標」を用いたポートフォリオ作成し、
学生が自己

評価する。形成的評価として各科目終了時と、卒業前(12月ごろ)に自己評価を実施する。

*分娩介助技術評価に関しては、実習地で3-4例目、継続事例の介助時評価(教員・臨床指導者による合同カン

ファレンスと自己評価)を実施する。参加できる学生は参加する。

10例分娩介助終了後、学内で9月末に発表会を実施する(目的:助産過程を理解し、言語化できる)。

臨床指導者が参加できる場合は、学内発表会参加を依頼する。

③授業評価 教授方法と教材の評価

カリキュラムに対する学生へのアンケート調査(大学が実施する授業評価アンケートの結果を反映する)

④DP 到達度評価 ①~③で評価を行う

DP 到達度の学生の自己評価

1. 医学・薬学・看護学・助産学の知識に基づいたマタニティサイクルにおける母子及び家族の健康課題の診断と支援ができる。
2. 産む人のニーズを尊重した安全で満足な分娩介助ができる。
3. 女性のライフサイクル各期における健康課題に対する診断ができる。

4. 助産師の倫理的責務を果たすための倫理観が身についている。
5. 母子および家族の健康課題や母子保健を取り巻く課題を解決するために、保健・医療・福祉・行政との連携を図り、地域とつながる切れ目ない支援体制を計画できる。
6. 助産師として主体的に自己研鑽し続ける能力が身についている。

⑤卒業後評価

半年、1年、3年の3回にわたり、卒業生に卒業後評価および就職先の上司への聞き取り評価を行う。

結果を大学の教育内容に活かす。

地域助産学シラバス案

授業科目名		担当教員			
地域助産学		A(科目責任者)、B			
時間割番号	単位数	履修年次	期別	曜日	時限
	1	3	前期		
[学習目標]					
この授業では、地域母子保健活動の意義・しきみを理解し、地域における助産師活動の役割について理解を深める。地域に根ざした母子保健の現状と課題について学び、地域社会で活動する他職種や組織との連携・協働について理解を深める。また、頻発する災害に対して、地域と連携した災害時の助産師としての役割を考察する。					
[到達目標]					
1.日本の母子保健に関する統計資料を分析し、日本の母子保健の現状と動向を考察し説明できる。 2.日本および諸外国における母子保健制度や母子保健施策および課題について説明できる 3.地域で生活する母子及び家族のサポートシステムについて説明できる。 4.地域で生活する母子及び家族を支援する助産師の役割、地域で活動する他職種や組織との連携・協働について考察し述べられる。 5.実習地域の分析を通して、地域の特徴をふまえた母子保健活動について述べられる。 6.地域で生活する母子の健康状態を査定し、子ども・母親・父親や家族の健康維持・増進のために必要な支援を計画することができる。 7.災害時の母子への支援について、地域と連携した助産師の役割を考察できる。					
[授業の方法]					
1. 討議:各講義ごとに事前課題を学習・分析し発表する。全体討議により互いに理解を深め考察する。 2. レポート:個別とグループで褥婦と新生児の模擬事例に対する母子訪問計画を立案しレポートにまとめる。グループ討議や全体討議を通して学びを深める。 3. ロールプレイ:レポートで作成した母子訪問計画をロールプレイで実践し、実施・結果・評価・訪問サマリーを各自で記述する。 4. 地区診断:グループ毎に設定した地域に関する情報収集・分析を行う。発表と全体討議を通して地域の状況を比較検討し、母子保健活動の在り方を考察する。					
[授業計画] : 担当教員					
1. ガイダンス 地域母子保健活動の概念と意義 わが国の母子保健の動向と課題 : A(助産師 学内教員) 2. 母子保健行政 おもな母子保健制度と母子保健施策 保健・医療・福祉関係者との連携: B(保健師 学内教員) 3. 地区診断と地域母子保健活動の実際 ①妊婦・新生児・褥婦の訪問指導 : A(助産師)B(市町村保健師) 4. 地区診断と地域母子保健活動の実際 ②乳幼児の健康診査とケア : B(市町村保健師) 5. 地域における助産活動 助産サービスの目的と特徴、関連する母子保健行政、助産サービスの実際 産後ケア事業 : C(開業助産師) 6. 災害時の母子への支援 : C(助産師会災害担当委員)E:その他 市町村災害担当職員 7. 国際母子保健 諸外国の母子保健活動 在日外国人の母子保健 異文化出産における問題と助産ケア : D(海外で実務経験のある助産師) 8. 母子訪問計画立案とグループ討議 : A(助産師) 9. 母子訪問のロールプレイ : A(助産師) 10. まとめ A(助産師)、B(市町村保健師)、C(開業助産師)					
[必要知識・準備]					
日本の母子保健サービスの根拠となる関係法規、実施主体、財源等については、看護師国家試験レベルまでの範囲は事前に理解しておくことが望ましい。各々の理解度に合わせて、事前に自己学習等により整理しておくこと。					
[評価方法・評価基準] / [成績評価の方法] / [評価の観点] 出席時間数要件: 4 / 5以上					
No	評価項目	割合	評価の観点		
1	討議への参加度	30%	主体性、積極性、建設的意見		
2	発表資料(地区診断含む)	30%	内容の的確性、発表態度		
3	レポート、ロールプレイ	40%	内容の的確性、準備性、表現力		
[教科書] / [テキスト]					
我部山キヨ子ら(2010). 助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健. 医学書院					
[参考書]					
厚生省の指標 臨時増刊 国民衛生の動向(厚生統計協会他、最新版) 母子衛生研究会「母子保健の主なる統計」、母子保健事業団、最新版					
[実務経験を有する担当教員]それぞれの資格に基づき実務経験を活かし、各回の授業を担当する。					
・A(助産師) ・B(保健師) ・C(開業助産師) ・D(海外で実務経験のある助産師) ・E: その他 市町村災害担当職員					

2020年度 ファーストステージ研修 助産師教育課程 3G カリキュラムリスト

最終版20210218

科目 <small>※赤字は読み替える科目</small>	科目概要	DP1 マタニ ティサイ クルの 特化 支援	DP2 安全調 養な分 娩介助	DP3 ライサ イクル	DP4 産後 ケア	DP5 母子保 健、地 域 連携	DP6 主体的 に自己 研鑽	単位	開講時 期	評価項目(DPと対応)						
										試験 DP1, 2	レポート DP1, 3, 5	プレゼン DP1, 6	記録 DP1, 2, 3, 4, 5	評価への 利用率 DP1, 5, 6	達成、取 組み DP4, 6	
助産 診断 ・ 技 術 学	助産診断技術学Ⅰ(妊娠期)	助産師国家試験受験資格取得の必修科目として開講する。マタニティサイクルのうち、妊娠期における助産診断と技術について、講義及び演習を通して学習する。	◎	○				1	3年後期 1-2月	50%		20%		30%		
	助産診断技術学Ⅱ(分娩期)	助産師国家試験受験資格取得の必修科目として開講する。正常経産の産時に焦点をあて、分娩期における助産診断と技術について、講義及び演習を通して学習する。基本的な分娩介助技術を習得する。	◎	○				3	4年後期 4-6月	50%		20%		30%		
	助産診断技術学Ⅲ(産褥・新生児)	助産師国家試験受験資格取得の必修科目として開講する。マタニティサイクルのうち、産褥期・新生児期における助産診断と技術について、講義及び演習を通して学習する。新生児救急NCFR(コース)の実践を含む。	◎	○					3	4年前期 4-6月	50%		20%		30%	
	助産診断技術学Ⅳ(健康教育)	助産師国家試験受験資格取得の必修科目として開講する。社会に関する健康教育。マタニティサイクルに必要とされる教育支援について、個人・集団への支援方法を学習する。			◎				1	4年前期 4-6月		30%	30%		40%	
	助産診断技術学Ⅴ(ハイリスク管理)	助産師国家試験受験資格取得の必修科目として開講する。身体・心理・社会的ハイリスクケースの医療介入を要する妊産婦および新生児を対象とした産前産中、必要の助産ケアについて学ぶ。周産期状態に対応できるALSの一部の内容も含む。	◎						2	4年前期 4-6月	60%				40%	
助産 管理	看護管理学	現代の少子高齢化社会を背景とする時代に求められるマネジメントやリーダーシップ、人権育成、安全管理などの看護管理の基本について学ぶ。		△					1	4年後期						
	助産管理	助産師国家試験受験資格取得の必修科目として開講する。法令に基づく助産師の業務の理解、周産期産科システムの運用と地域連携を行う必要性を学び、病院・診療所・助産所等の場における助産師管理の役割を説明し、質の高い助産ケアサービスを提供するための管理の役割について学ぶ。周産期管理と安全、助産記録、助産所管理、助産師のキャリアアップについて学ぶ。		◎					1	4年後期		30%	30%		40%	
地域 母	多職種連携	協働的なチーム運営を学ぶための医学部主体の科目として開講する。専門職の役割、連携について、チーム医療のあり方や職種間における専門性を尊重する姿勢など多職種連携の意義について学ぶ。					△		1	2年前期						
母 子 保 健	地域助産学	助産師国家試験受験資格取得の必修科目として開講する。母子保健活動(乳幼児健診、新生児訪問、地域に根ざした連携等)について学ぶ。地域で生活する母子と家族の健康支援やケア技術、子ども成長発達にむいた母子と家族支援への理解を深める。地域での他職種連携・協働を学ぶ。					◎		1	3年前期		40%	30%		30%	
	助産実習Ⅰ(分娩介助)	助産師国家試験受験資格取得の必修科目として開講する。妊産婦および新生児の支援に必要な基本的診断能力と技術および態度を身につける。(専攻職別体験は、実習支援自講学実習/母性で実施済み)(目安:分娩介助症例8例)	○	◎		○	○		6	4年7-9 月		20%		40%	40%	
	助産実習Ⅱ(ハイリスク周産期)	助産師国家試験受験資格取得の必修科目として開講する。身体・心理・社会的ハイリスクケースの医療介入を要する妊産婦および新生児の支援について症例(例)を通して助産師の役割を学ぶ。また、継続的支援について、多職種連携の実践についても学ぶ。	◎			△	○			1	4年7-9 月		20%		40%	40%
	助産実習Ⅲ(助産所)	助産師国家試験受験資格取得の必修科目として開講する。妊娠前から産後、産後1か月間までを適切に、受け持てる助産所や産科クリニックに併設し、助産師の役割・継続支援について学ぶ。妊娠前から産後の母子1組を適切につなぐことにより、個別性の高い助産ケアや産科ケアについて学ぶ。必要の場では、産前産中教育や健康支援を実施する。	○	○	○	○	○	◎		2	4年4- 10月		20%		40%	40%
	助産実習Ⅳ(地域母子保健)	助産師国家試験受験資格取得の必修科目として開講する。地域における母子保健活動の実践について学ぶ。				△		◎		1	4年後期 10月		20%		40%	40%
	助産実習Ⅴ(更年期外来、不妊外来)	助産師国家試験受験資格取得の必修科目として開講する。更年期外来、不妊外来、女性外来などの見学を通してレクチャーセッション、オンラインヘルスケアなど、女性が生涯を通じて、身体・心理・社会的well-beingを促進するための健康支援の必要性、方法を考えることができる。	○		◎					1	4年後期 11月		40%		40%	20%
看護学科科目との読み替え科目(6単位分)		母性実習で早期産前産後研修を行う														

助産実習Ⅲ（助産所）実習要項

1. 実習目的

助産に関連する既習科目で学んだ知識、技術を用いて、マタニティサイクル上にある妊婦・産婦・褥婦と胎児・新生児及びその家族に焦点をあてて、助産を実践する基礎的能力を養う。特に妊娠期から産褥期を継続して受け持ち、正常経過からの逸脱の可能性及び健康生活に関わるウェルネスに基づくアセスメントと、正常経過あるいは健康生活を維持していくための支援を実践する。

地域での助産実践活動をとおして、地域における助産師の役割、多職種や行政との連携を理解し、今後の地域助産活動の在り方について考え、地域で自立した助産師としての責務や援助の在り方を考えることができる。

2. 実習目標

地域助産所での実習を通して習得する内容

- (1) 助産師が行う対象の個別性に応じた必要なケアの判断と実践を理解する。
- (2) 助産所における妊婦健診、分娩、産褥・新生児ケアの見学を経験し、正常経過にある妊娠・分娩・産褥期にある女性の心身の状態を理解できる。
- (3) 妊産褥婦および新生児に対して基本的な助産ケアの理解を深め、日常生活援助、基本的な助産ケアを指導者の指導の下で実践できる。
- (4) 妊産褥婦が日常生活の中での妊娠・分娩・育児をどのように捉えているかの理解を深める。
- (5) 助産所における助産師の役割と責務(助産所管理・運営を含む)に対する理解を深める。
- (6) 安全な分娩とケアのための助産所と医療機関との連携・調整について理解できる。

3. 実習の内容と方法

1) 助産所では、下記の内容を基本として、実習を行う。

(1)妊産褥婦・新生児のケア

- ①助産所内で行われている妊産褥婦へのケア(妊婦健診、産婦ケア、新生児の観察・沐浴、授乳介助、健康教育、母乳相談)を見学する。
- ②妊娠 32 週～34 週程度の妊婦を受け持ち、妊娠期から産褥・新生児期(助産所入所中、産後 2 週間健診まで)を継続して受け持つ(学生 3 名×1 名の受け持ち)。
- ③継続的に妊婦健診に同伴し、助産所助産師の指導のもとに実施する。
- ④受け持ち事例の正常分娩に立ち会い、産婦へのケアを助産師とともにこなす。分娩とは、第 1 期から第 4 期までをさす(直接分娩介助はしない)。

⑤助産所における基本的な助産師の役割の一部として、助産所において実施されている日常生活援助を、指導のもとに実施する。特に、食事、清掃、洗濯などの日常生活に関することについても、学生は積極的に参加、実施する。

⑥継続して産後健診に同伴する。

(2)受け持ち事例の助産過程を妊娠期から分娩期、産褥、新生児期、産後2週間健診時まで継続して展開する。

①母児の個別性を考慮し、身体的・心理的・社会的な健康状態の診断に必要な情報を収集できる。

②収集した情報を分析・解釈・統合し、身体的・心理的・社会的な健康状態および経過の正常性を診断し、今後の経過の予測ができる。

③助産診断に基づき助産計画を立案し、安全・安楽を考慮し対象の反応をみながら実施できる。

④異常の発生予防、早期発見に努め、異常発生時は医療チームの一員として対応について考察できる。

⑤目標の達成度、援助・健康教育の効果および助産過程の全プロセスを評価する。

⑥妊娠・分娩・産褥各期と新生児について助産ケアを展開ができ、各期に応じた保健指導を立案・実施・評価を行うことができる。

⑦助産活動における倫理的課題・問題を認識し、考察できる。

2) 助産所以外での実習

(1)妊産褥婦・新生児のケア

①受け持ち事例の病院施設受診(1回)に同伴する。

4. 日程

2021年4月初旬～6月末まで

5. 学生配置

妊娠32～34週程度の妊婦1名に対し、学生3名を配置する。

6. 実習の記録

1) 実習記録

見学実習記録

実習記録(様式〇～〇)

2) レポート課題

7. 実習の評価

実習の評価は、臨床指導者による評価や自己評価表)などを考慮して実習担当教員が行う。

1)評価基準：実習への取り組み（40%）、実習記録(40%)、レポート（20%）

2)成績評価の前提条件

実習のそれぞれの実習日数の 4/5 以上の出席が必要である。原則として期限までに未提出の記録等がある場合は、単位認定対象外とする。病欠の場合は診断書の提出があれば補習実習の対象となる。

3)評価の方法

以下の内容に基づいて総合的に判定する。

- (1)実習出席状況
- (2)実習態度
- (3)実習に使用したすべての記録
- (4)自己評価表

8. 実習前のレディネス

実習までの学習習得（準備学習等について）

- ・基礎看護学で学んだ基本的な看護技術を身につけている。
例：衛生的な手洗い、清潔不潔の区別、清潔操作、ガウンテクニック、清潔手袋の付け方、導尿、ベッド上での正式、点滴使用時の更衣、温罌法、足浴、車椅子への移乗など
- ・母性看護学の知識と技術、助産に関連する既習科目で学んだ知識、技術（妊娠期、分娩期、産褥期の正常経過とケア）を身につけている。

助産実習Ⅳ（地域母子保健）実習要項

1. 実習目的

助産に関連する既習科目で学んだ知識、技術を用いて、地域の特性と母子保健事業の現状と課題を把握し、地域母子保健における助産師の役割を考えることができる。

2. 実習目標

市区町村保健センターでの実習を通して習得する内容

- (1) 地域の特性、母子保健事業の現状と動向を把握できる。
- (2) 地域母子保健事業における体制、他職種・他機関との連携・協働について学ぶ。
- (3) 地域における母子保健事業を学び、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援における助産師の役割について考察できる。

3. 実習の内容と方法

(1) 妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援

- ①保健センターでのオリエンテーションを通して、地域の特性と母子保健事業の現状と課題を把握する。
- ②保健センターで実施している母子保健活動を見学し、その実際を学ぶ
母子健康手帳の交付、乳幼児健康診査、健康相談（育児相談、母乳相談、家族計画相談など）、健康教育（思春期教育、両親学級、更年期教育など）、地域における子育て支援、新生児訪問（療育訪問）に同伴する。
- ③子育て世代包括支援センターによる支援を学ぶ
子育て世代包括支援センターの見学により、子育て世代包括支援センターの子育て支援事業（子育て情報の提供、子育て相談、産前・産後ヘルパー支援事業、産後ケア事業、子どもの悩み相談、教育相談、子どもショートステイ、子どもの虐待相談、里親委託・養子縁組など）について学ぶ。

(2) 他職種・他機関との連携

- ①保健センターの講義を通して、ハイリスクケースの分娩取扱機関との具体的な連携方法や、実習地域における要保護児童対策地域協議会（要対協）の意義・役割・連携方法について学習する。
- ②周産期医療システムの会議を見学する。
- ③乳児院への見学・現地での講義により、社会的ハイリスクケースの支援・連携について学習する。

(3) 地域における助産師の役割について考察する。

4. 日程

4年次後期 9～10月 1週間

【スケジュール概要】

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
午前	学内 オリエンテーション	保健センター	保健センター	乳児院	子育て世代包括 支援センター
午後	保健センター オリエンテーション		全体討議 記録整理	全体討議 記録整理	全体討議 記録整理

【まとめ】

レポート：地域母子保健事業のうち興味のあるテーマを含め、地域における助産師の役割について考察する。

5. 学生配置

4年次後期：6人

選択科目

助産学教育課程を希望する学生は必修

6. 実習の記録

1) 実習記録

見学実習記録

実習記録（様式〇～〇）

2) レポート課題

7. 実習の評価

実習の評価は、実習態度や自己評価表などを考慮して実習担当教員が行う。

1) 評価基準：実習への取り組み（40%）、実習記録(40%)、レポート（20%）

2) 成績評価の前提条件

実習のそれぞれの実習日数の4/5以上の出席が必要である。原則として期限までに未提出の記録等がある場合は、単位認定対象外とする。病欠の場合は診断書の提出があれば補習実習の対象となる。

3)評価の方法

以下の内容に基づいて総合的に判定する。

- (1)実習出席状況
- (2)実習態度
- (3)実習に使用したすべての記録
- (4)自己評価表

8. 実習前のレディネス

実習までの学習習得（準備学習等について）

- ・4 年次後期：助産師コースにおける専門科目講義、臨地実習は助産実習Ⅴ（更年期外来、不妊外来、女性外来）の見学実習を除き、すべて履修済みの時期

学生は、3 年前期の地域助産学の講義で事前に地域母子保健のしくみや母子訪問について理解しているため、母子保健事業に対する基本的知識をもって実習に臨む状態である。

5) 公開講座

2020年度 全国助産師教育協議会
ファーストステージ研修

公開講座 オンライン開催

2020年度公開講座は、3名の先生方にご協力いただき、助産師教育課程に関する公開講座を企画いたしました。
これからの助産師教育を考えてみませんか？

本講座は教員対象のCLOCMiPの更新要件である専門的自律能力「教育及び臨地実習に関する研修（以下、教育）」「助産管理に関する研修（以下、管理）」に該当します。

募集人員 先着 80 名程度
受講料 1コマ2,200円 修了証発行料1,100円
 (いずれも税込)

申込み期限 2020年12月3日
申込み方法 全国助産師教育協議会 <http://www.zenjomid.org/>
 ファーストステージ研修のバナーからご確認ください。

★HPからの申し込みと、受講料のお振込みを持って申し込み完了と致します。
 ★修了証発行希望の方は修了証発行手数料も一緒にお振込み下さい。
 ☆振込口座番号：三菱UFJ銀行 浅草橋支店 普通預金 0109607
 名義人：公益社団法人全国助産師教育協議会 研究センター

日程	テーマ[CLOCMiPの更新要件]	講師
2020年 12月12日(土) 13:10~14:40	医学教育の現状と課題 [教育]	公益社団法人 地域医療振興協会 理事 北村 聖 先生
2021年 1月10日(日) 13:10~14:40	職能団体における教育に関する 役割と連携(日本助産師会) [管理]	日本助産師会 副会長 安達 久美子 先生
2021年 1月24日(日) 10:30~12:00	職能団体における教育に関する 役割と連携(日本看護協会) [管理]	日本看護協会 理事 井本 寛子 先生

お問い合わせ
 全国助産師教育協議会事務局(火・木・金 事務局在室)
 Tel: 03-6384-2075 mail: zenjomid.1965@car.ocn.ne.jp

2020年度 全国助産師教育協議会

ファーストステージ研修



公開講座

オンライン開催

募集人員 先着 80 名程度

受講料 高橋弘子先生：6コマ10,000円 (eラーニングの事前学習3コマ込)

修了証発行料1,100円

伊藤美栄先生：5コマ10,000円

修了証発行料1,100円

申込み期限 2021年2月5日

申込み方法 全国助産師教育協議会<http://www.zenjomid.org/>
ファーストステージ研修のバナーからご確認ください。

★HPからの申し込みと、受講料のお振込みを持って申し込み完了と致します。

★修了証発行希望の方は修了証発行手数料も一緒にお振込み下さい。

☆振込口座番号：三菱UFJ銀行 浅草橋支店 普通預金 0109607

名義人：公益社団法人全国助産師教育協議会 研究センター

日程	テーマ[CLoCMiPの更新要件]	講師
2021年2月20日まで	eラーニング事前学習 助産師教育における教授・学習活動の成立 ①助産師教育の歴史 ②現代の助産師学生 ③教育現場で活用したい学習理論	元 北海道科学大学 高橋 弘子
2021年 2月21日(日) 10:40~12:10 13:10~14:40 2021年2月24(水) 16:50~18:20	オンライン講義3コマ 助産師教育における教授学習活動の成立 助産師教育における教材と教材研究 【教育9.0h】	
2021年 3月7日(日) 10:40~12:10 13:10~14:40 14:50~16:20 3月14日(日) 10:40~12:10 13:10~14:40	オンライン講義5コマ 授業評価の考え方(OSCEの理論と実際を含む) 【教育7.5h】	国立病院機構 京都医療センター 附属京都看護助産 学校 伊藤 美栄

お問い合わせ

全国助産師教育協議会事務局(火・木・金 事務局在室)

Tel: 03-6384-2075 mail: zenjomid.1965@car.ocn.ne.jp

セカンドステージ研修

1) 概要

【教育目標】

今後の教育機関のあるべき姿を考えた組織改革に必要な能力を身につける。

【日程】 2019年11月4日、2020年3月14日、15日 3日間 9:00~17:00

⇒2019年11月4日、2020年11月29日、2021年3月6日 3日間に変更

【教育内容及び方法】

助産師を取り巻く社会の動向から今後の助産師教育の経営や運営上必要な視点を模索し、革新的な経営戦略について考察する。

【参加者】 12名 (欠席なし)

【研修実施状況】

≪2019年11月4日≫

1. 講義

目的：今後の助産師教育機関のあるべき姿を考えた組織改革が行える能力を養うため、助産師（看護職）を取り巻く社会の動向と現状を学ぶ。

テーマ①「助産師を取り巻く医療・助産・看護の動向と今後の教育の方向性」

講師 日本看護協会会長 福井トシ子

テーマ②「医療施設における管理の現状と助産師教育機関に必要な組織改革」

講師 社会医療法人愛仁会本部 倉本孝子

2. 演習①（グループ・個人ワーク、研修生自身によるプレゼンテーション）

ファシリテータ：鈴木千秋 倉本孝子 渡邊典子 浅見恵梨子

目的：自己課題および研修生の課題を共有するとともに、助産師を取り巻く社会の課題をふまえて、助産師教育の経営及び運営上必要な視点について意見交換し、実現可能な課題および課題の取組み（アクションプラン）を検討する。

方法：事前課題の発表及び課題の検討（演習）

≪2020年11月29日≫

3. 演習②（グループワーク、各グループのプレゼンテーション）

ファシリテータ：渡邊典子 浅見恵梨子 倉本孝子

目的：各グループもしくは個人（4ヶ月間）での取り組み状況を共有するとともに、今後の組織改革に向けて必要な視点、組織改革の方略を検討する。

方法：中間発表および各グループの検討計画に沿って運営する。

途中、グループ別の経過報告をご提出頂いた

「2021年3月6日」

4. 最終発表 ファシリテータ：渡邊典子 浅見恵梨子 倉本孝子

発表テーマ：

- ①教育組織と臨床組織のコラボレーションによる助産教員候補者の育成
—研究能力育成を目指したアクションプラン—
- ②助産師教育に携わる大学教育組織の人材育成—教員の成長を促す組織運営—助産学教員用電子ポートフォリオの作成の試み
- ③互恵性のある助産師教育組織の運営
- ④実習施設との協働による助産師教育を展開するための組織運営を検討する

2) 受講生

2019年度「助産師教育セカンドステージ研修」は、大学、短期大学、専門学校、臨地で助産師教育に携わっている者（研修生12名）が受講した。

所属別		助産師教育運営組織論： 30時間2単位
教育課程	大学院	2
	大学・短期大学の専攻科	3
	大学	4
	専修学校	3
臨床指導者		
その他		
計		12

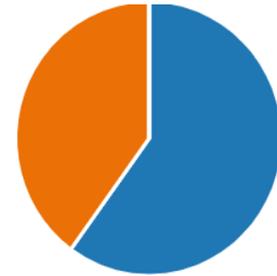
(1) 講義の評価

2019~2020年度 セカンドステージ研修助産師教育運営組織論
アンケート結果

Forms で作成したアンケートの URL を最終日にメール送付し、受講者には受講後 2 日以内で回答を依頼。受講者 12 名中 11 名から回答があった。

1. 研修の満足度について、該当するものを 1 つ選んでください。

● 満足	6
● ほぼ満足	4
● あまり満足していない	0
● 不満	0

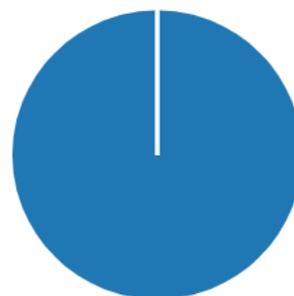


2. 1. で回答した満足度の理由をご記載ください

- ・課題は難しかったけど、グループメンバーと討論したりして考えることができたため。また、他のグループの発表を聞いてとても勉強になりました。
- ・先生がたの適切なご指導と共に、受講生の皆さんとの意見交換がとても良かったです。
- ・グループメンバーで長い期間を経て、一つの課題に取り組み、成果を出すことができました。途中でくじけそうでしたが、メンバーと協力し、その成果について、よい評価をいただき満足できました。
- ・自施設での運営に関して、改めての考える機会になりました。助産師教育としての組織だけでなく、大学教授としての組織運営の責務など、掘り下げて考えることができました。
- ・グループワークはとても楽しく勉強になりましたが、その前に基礎的な助産師教育の運営組織論の講義を受けたかったです。
- ・組織運営について考える機会となったから
- ・自己の課題ももちろんであるが、今後、組織の運営をして行く役割を俯瞰して考えることができた。さらに、他のグループの発展的な構想を拝見しより経営の視点で教育を考えていくことに必要性を実感できた。
- ・組織経営や運営等の視点での考え方に触れることができた。
- ・プロセスや実践計画について適切なフィードバックを頂けたこと。また他のグループの発表からも学ぶ事ができたこと。
- ・グループでのディスカッションをして、深めていくことができた。また、他のグループの発表内容が、今後の自施設や自分の助産師教育に活かすことができる内容を学べたから。
- ・発表まででき、やり遂げることができた。

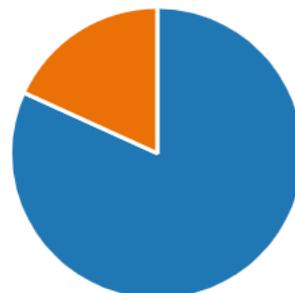
3. 開催時期について、該当するものを選んでください

● 適切	11
● 改善が必要	0



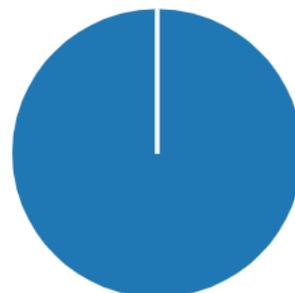
4. 開催期間について、該当するものを選んでください。

● 適切	9
● 改善が必要	2



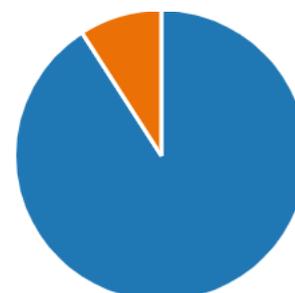
5. 開催時間について、該当するものを選んでください。

● 適切	11
● 改善が必要	0



6. 開催会場について、該当するものを選んでください。

● 適切	10
● 改善が必要	1



7. 3～6の設問（開催時期、期間、時間、会場）での意見をご記載ください。

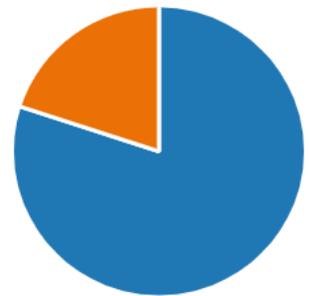
- ・コロナの影響で期間は長くなったが、その分、グループで討議できる時間ができたことは良かったと思う。従来の研修計画だと、2回目3回目が連続だったのでグル

ープ活動の時間が少なく、また、先生方や他グループのメンバーからの意見をもらってからの修正をする時間が取れなかったと思うので、2回目と3回目に期間が必要だと思う。

- ・コロナ禍の状況から得たこととして、Zoom 等での研修の機会があっても良いかと思いました。
- ・今回は、コロナ感染症の影響を受け、オンラインでの研修できたが、それもよかったですと思います。ありがとうございました。いろんな意見を聞くことができ、温故知新、自分が変化していかなければと思いました。
- ・オンラインのメリットを最大限活かしてワークや発表ができたと思います。
- ・Zoom での開催は参加しやすくてよかったです。
- ・オンライン研修なので参加しやすかったです。
- ・時間をかけることによりグループでの検討も多くできた。開催時期はこの時期が妥当であり、助かりました。開催時間は、程よくグループ検討の時間も組み込まれており、良かったのではないのでしょうか。やりやすいと感じました。Zoom での開催でしたが、本当に多くの学びが出来ました。むしろ対面よりも交通時間を削減することができ良かったのではないかと感じます。
- ・自己の都合ですが、2年に渡ったので、他の研修と重なる期間があったため
- ・オンラインで参加できると、地方のものは参加しやすい。

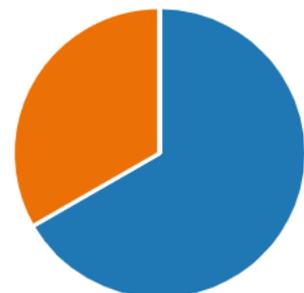
8. 開講様式（講義、ディスカッション、発表）について、該当するものを選んでください

- | | |
|---------|---|
| ● 適切 | 8 |
| ● 改善が必要 | 2 |

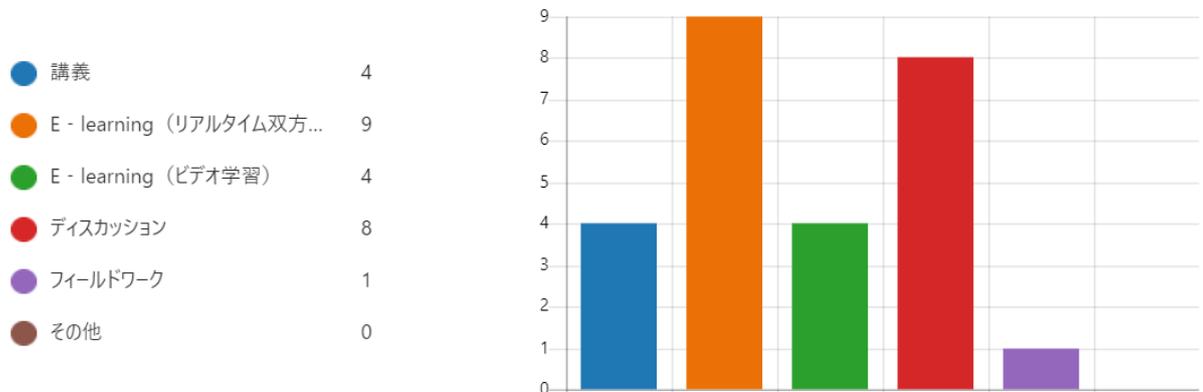


9. 改善が必要と回答された方にお伺いします。改善が必要だと思われたのは、以下のどの項目に該当しますか。

- | | |
|-------------------|---|
| ● 講義 | 2 |
| ● ディスカッション（対面） | 1 |
| ● ディスカッション（オンライン） | 0 |
| ● 発表（オンライン） | 0 |



10. 開講様式において、今後取り入れるのが望ましいのは、以下のどの項目に該当しますか。



11. 科目のレベルは、あなたにとって適切でしたか。

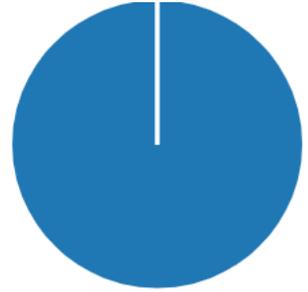


12. 11.の設問で「適切でない」と回答された方にお尋ねします。その理由を記載してください。

- ・組織運営、経営の視点が自分には不足していて、課題や方向性を見出す時に意見を言うことが難しかった。しかし、自分にはなかった視点を学ぶ良い機会となった。
- ・組織改革に必要な現状を社会や関連機関、施設など様々な視点から現状を分析して課題を見出すことやそれに基づいて具体的にアクションプランを立案することは学ぶ事ができた。しかし他のグループの壮大なテーマと論理的な改革プロセス発表等から、自己の未熟さを痛感しました。自己の学びはたくさんありますが、先生方や他の参加者に教えを頂くことばかりだった。日々学校リーダーとしての意識を持って今後取り組んでいかなければならない反省もあったため。
- ・組織論の基礎がないので、どのように考えていけばいいか迷うことが多かったです。

13. プログラムの流れと学習成果の関係性について、該当するものを選んでください。

● 良い	11
● 改善が必要	0



14. 13.の設問で「改善が必要」と回答された方にお伺いします。改善が必要と思われた内容・方法等をご記載ください。 記載なし

15. この研修をどこでお知りになりましたか。該当する番号を1つ選んでください。

● 本会ホームページ	6
● ニュースレター	2
● 知り合い	0
● 職場	3
● その他	0

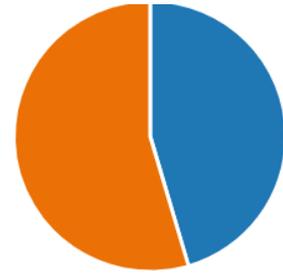


16. 受講に際し、どのようなご苦勞がありましたか。なかった方は「なし」とご記載ください。

- ・ コロナ禍で ZOOM という手段を使えるようになっていたので、前回のセカンド受講時よりもグループワークがスムーズにできたと思う。ただ、実習やなんやらで忙しい中での活動だったので、時間を合わせるのが大変だった。
- ・ 大学業務との調整
- ・ 課題解決策を実践するために、他者に協力を得ることに困難さがあった。
- ・ 課題にあてる時間を取るのが難しかった。
- ・ ご苦勞というほどでもないのですが、電子ポートフォリオをクオリティーを上げていくことも必要だったかも知れません。そういう意味では仕事とのバランスを自分の工夫でもっとこの研修に時間をさけたのではないかと思います。今後もタイムマネジメントもしていきたいです。
- ・ 他の研修と学校業務で多忙であったこと。
- ・ 今回、コロナの影響で、受講期間が延びたことで、検討する時間が増えてよかった。元々の期間であると、少し時間的に余裕がなかった。
- ・ グループ間での知識量に差があったことで、ご迷惑をおかけしたと思います。
- ・ なし 3名

17. 受講費について、職場からの援助がありましたか

● あった	5
● なかった	6



18. 本研修を通して改善点や意見、感想などご自由に記入してください。

- ・7の設問でも回答しましたが、1回目、2回目、3回目は一定の期間を設けて日程を設定すると、グループ活動が出来ると思いました。
- ・長期間になりましたが、それが私たちグループにとっては良かったと感じております。
- ・組織運営論を今回学ばせていただきましたが、その基本的な知識を得ないまま、課題に取り組んだのが現状です。今回の課題に取り組む前に、基本的な知識のご教授があると助かります。手元の文献やテキストでは、不十分でした。
- ・担当の先生方には多大な時間とご負担をおかけしたと思います。ありがとうございました。
- ・日頃は責任者の立場で考える場面が少ないので、守られた既存の環境で仕事をこなしていますが、新規の教員が見つからない、新入学の院生が少なくなっているなど、運営上の課題に対して真剣に考える機会になりました。
- ・経営学のプロフェッショナルや医療経済に関する講師なども入れて頂けるとさらに学びになると思います。しかし、これは各自で学ぶことかもしれません。自己の課題にしたいと思います。
- ・コロナ禍でありながら、2年越しで研修会を最後まで開催して下さいありがとうございました。オンラインでの開催は移動がなく、受講しやすく感じました。
- ・先生方や他の参加者からのご意見やディスカッションからの学びは大きいので、このような少人数・参加型の研修は必要であると感じました。
- ・一番初めの各自のプレゼンの時の講師の先生方から、これではいけない！という危機感のある言葉をもらい、今回の研修の目的を改めて考えさせられた。
- ・今回、同じ職場から2名参加させていただいたので、進捗状況を話し合ったり励ましあったりする機会があったので、最後まで続けることができました。もし1名だったら途中でやめていたかもしれません。

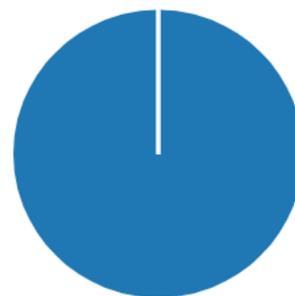
19. ご自身の目標に照らして学習到達度、研修の効果、感想についてご記入ください。

- ・助産師養成単科の助産師学校に勤務しているのですが、教育理念に「実践力をもつ専門職種の育成」がある。そのためか、どうしても実践力を修得させて卒業させることに重きを置きすぎ、研究への視点等が弱いと改めて感じた。今回の研修を受けて、現在働いている学校組織で足りていない所がわかったので、まずは自分の組織を見直していくきっかけになった。

- ・積極性に欠けたと反省しております。
- ・組織運営という大きな視点での学習到達度は、60点合格ギリギリ点かと自己評価しています。しかし、組織における問題を「人」「物」「経済」「情報」から分析し、問題を明確にすること。明確になった問題解決のためにどのような目標をたて、それに向かって組織をどう運営していくかは学べたと思います。
- ・目標に対して、十分に到達したと思います。満足しています。研修で見えてきた課題を踏まえて、次に活かすことができると思います。
- ・現状をどのように動かすかという視点ではなく、より発展的に考えることで多くの刺激を受けることができました。
- ・教員のキャリアラダーに関する下位目標を作成することの必要性は以前より感じておりましたので、全助協の先生方も同様の思いを持って下さっていること聞き、微力ですがお手伝いできればと思いました。自己の目標の達成度は75%で、もっと早く取り組んで行けば完成度も高く満足度も上がったのではと感じました。研修の効果としては、自己の役割のあり方を考える機会ともなり、感謝しております。このような研修を企画し、ご協力頂いた先生方に感謝し、また自分自身も今後ご協力させて頂く事があれば、積極的に参加させて頂ければと思います。今後の若い先生方のお役に少しでも立ちたいと思いました。ありがとうございました。
- ・前述したように運営などの視点が不足しており、課題や改善策を考える上で難しく感じましたが、受講生の先生方の色々な考えや課題、取り組みに触れ、運営や経営について学ぶ機会となりました。
- ・この研修での学んだ事が、今後の自己の学校でのリーダーシップ能力に必須である。自己のグループが取り組んだ他施設との協働による助産師育成に関しては、実践していきたいと思います。
- ・一番初めの自身のプレゼンテーションが、今回の研修の目的に合致していたのか？ということ振り返る必要がある。研修生全体で、どんな課題があって、それに向かってどのように課題解決をしていくかということは学びが大きかった。自施設や自分がどのようにしていけるかも含めて、今後も考え続けていきたい。
- ・発表までたどり着けて満足しています。

20. 研修への参加で、学習効果以外の利点がありましたか。

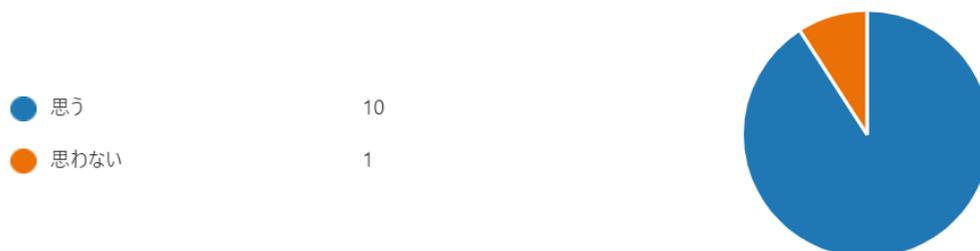
● ある	11
● ない	0



21. 20. 学習効果以外の利点が「ある」と回答した方にお伺いします。どのような利点があったかを記載してください。

- ・全国の助産師教育に携わる教員の先生方と知り合いになれたこと（前回のセカンド研修の講義で直接お会いした先生方とまた一緒に学習できたこと）
- ・グループ内でのディスカッションにおいての情報共有や他グループの発表内容、先生方からの指導、コメントが大変勉強になりました。有り難うございました。
- ・グループメンバーとのディスカッションにより、気づかされたことが多かった。グループメンバーの建設的な意見を聞く中で、自分自身が時代に合わせて変化していかなければならないと気付かされた。
- ・ワークやディスカッションを通して、メンバーと交流できました。自分には無かった考え方や価値観を知ることができました。
- ・職場の上司や修了生と意見交換ができ、本当に実現出来たら面白そうだという手ごたえがありました。
- ・受講生どうしのつながりができました。
- ・グループの先生方と Zoom など雑談もふくめ楽しく学ばせて頂きました。ネットワークが広がったと思います。
- ・人脈が広がったこと
- ・グループワークを通して他の学校との横のつながりができたこと。
- ・グループで課題を行っていくにあたり、いろいろな情報交換ができたため。
- ・他の教育機関の方と話し合うことができたので、情報交換になりました。

22. この研修を他の人に薦めたいと思いますか。



23. 22. で回答された理由を記載してください。

- ・後輩にも研修に参加して、もっと向上しなければと思ってほしい。
- ・自己の学びになることはもちろん、多くの先生方との意見交換の中で視野が広がり、もう少し頑張ってみようというエネルギーも頂ける機会となりました。
- ・大変でしたが、成果はありました。今後の助産師教育をより良いものへと変えていくために世の中が、どちらの方向へ向かっているかが理解できたからです。
- ・目の前の実習や講義だけでなく、広く助産師教育について考える機会になるため、このような研修に参加した方が良いと思います。
- ・いろいろな職場環境・立場の先生方と意見交換ができるため
- ・19で回答された理由でしょうか。愚痴や不平不満を言うのではなく、組織を改革していく助産師に成長したいと思っておりましたので、そのためにはこのような研修

は大変いい学習の機会であると思いますし、他の先生方に刺激を受けて、自分自身を省みることもできます。ありがとうございました。

- ・助産師教育に携わっている先生方と関われる機会となること、また難しいと感じるが、学ぶ機会となるため。
- ・自校の組織改革に活かすことができることや他教育機関とのつながりができ、教育者・管理者としての成長ができる。
- ・研修を受けて、広い視野を持って助産師教育業界全体のことが考えられるため。但し、この科目を受講するにあたっての目的や目標をしっかりと分かって受講する必要がある。
- ・やる気のある人、時間が作れる人でなければ続かないと思うからです。

24. 今後、どのような内容の教育研修を希望されますか。

- ・同じ教育課程（私の場合は1年制の専門学校）の教員間で、教育の問題点等がディスカッションできるような研修
- ・臨床の助産師さん達と共に助産師教育の展望について考える研修会があれば良いと思いました。
- ・企業や地域との連携による助産師教育の展望に関する研修
- ・例えば「運営組織論」なら、直接助産に関わるものではない領域からのヒントが得られると、もっと興味深くなるかと思います。
- ・先ほども書きましたが、医療経済、学校運営に関する講義もあると良いかもしれませんし、財務に関する知識などがあると組織を考える上でありがたいです。よろしくお願ひ致します。
- ・教育方法など

(2) 演習の成果

1G. 教育組織と臨床組織のコラボレーションによる将来の助産教員候補者の育成

セカンドステージ「助産師教育運営組織論」
教育組織と臨床組織のコラボレーションによる将来の助産教員候補者の育成
 ー研究能力育成を目指したアクションプランー



奥山葉子 (県立広島大学)
 沼澤広子 (国際医療福祉大学)
 岡山久代 (筑波大学)

キャリアの多様性
教育・研究職への道

- 5~7年の臨床経験を積み重ねる頃には、臨床実習指導者としての役割を担う者や、教員として助産の基礎教育に携わるといったキャリアを選択する者も出てくる。
- また学生の中から「将来は教育に進みたい、研究をしたい」というビジョンを持っている者も少なくない。
- しかしながら臨床実践では、新人で入社してからアドバンス助産師を取得するためのラダーにそって様々な経験を積んでいくもの、助産教員(助手や助教)になることを意図した体系的な教育は臨床という組織においては十分に設定されていない現状がある。
- そのため、教員を希望していても研究業績や実績が無く募集要件を満たせない者が多い。
- 採用されたとしても研究能力(自立して研究を実施していく能力、学生に研究指導を行う能力)の基礎ができておらず、その役割が十分に果たせない者も少なくない。
- 特に教育エフォートが重視される教育組織では、新人教員が研究に使えるエフォートが十分に確保されておらず、教育をしながら研究能力を高めていくことは容易ではない。
- 結果的に、業績が作れず、3~5年後の契約更新ができないという厳しい現実に向き合う。

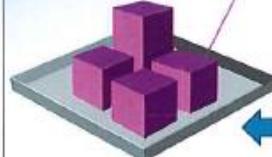
Contents



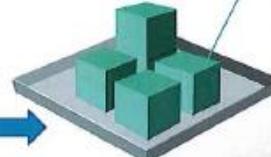
- I. 背景
- II. 課題解決のための方策
- III. アクションプラン1
- IV. アクションプラン2
- V. 評価

教育組織と臨床組織の定義

教育組織
助産師教育を行っている大学



臨床組織
分娩を取り扱う病院



⇔

両組織が目指すもの
助産に関する実践、教育、研究

I. 背景
助産師のキャリア形成

- 現在、CLOCMIP®レベルⅢ認証制度が定着し、助産師はアドバンス助産師になることを1つの目標として実践や研修を積み重ねている。
- アドバンス助産師はおおよそ5~7年の臨床での実践が必要とされ、「自律して助産ケアを提供できる助産師」として臨床での活躍が期待されている。
- 臨床実践では、新人で入社した場合、新人看護職員研修ガイドラインや新卒助産師研修ガイドラインに基づき、体系的な教育や研修が整えられている。

助産師の研究能力育成における教育組織と臨床組織の現状 (ヒト)

	教育組織	臨床組織 (管理者)	臨床組織 (助産師)
基本的方針と現状	学生への教育と研究の質の保証をするための構成員の教育・研究能力の質の向上は重要。	新人から中堅まで臨床実践を積み重ねることが優先。3年目くらいで病棟での研究グループに割り当てて	助産師として自立して実践していきたい。看護基礎教育や助産教育で、研究の基本は学んだ。大学院では研究を行った。
困っていること	研修の応募要件を満たせるような研究能力がある人材が少ない。大学院の定員を満たすのが難しい。	臨床での研究の必要性は分かるが、組織内で十分に指導できる人材が少ない。自分たちの研究方法が正しいのか、自信が無い。	臨床にいと研究しにくい。自分の施設では十分な指導を受けられない。研究は教員になりたいが、その方法がわからない。
希望	ある程度の研究力のある人材を確保したい。そのために若手助産師には臨床実践と並行して研究活動を行ってほしい。そして、大学院に進学してもらいたい。	臨床でも実践可能な研究を求めしていきたい。研究指導を受けて進めていきたい。	5~7年目にはアドバンス助産師を取得したい。教員というキャリアも考えたい。臨床でも研究をやりたい。大学院にも興味がある。

助産師の研究能力育成における教育組織と臨床組織の現状（カネ）

	教育組織	臨床組織（管理系）	臨床組織（助産師）
基本的方針と現状 困っていること	研究を行うためには人財資源と研究資金が必要。 大学への交付金や各教員に配分される研究費は削減されている。 臨床の定員削減等により教員の研究エフォートも削減されている。 研究の実働部隊を確保することが困難。 倫理審査、フィールドの確保は厳しくなる一方。	組織の経営方針利益も必要 コスト削減は必須 スタッフの研修のための時間の確保や費用を捻出したが、無償ではない。 病棟での研究を行うために経営は確保されていないことが多い。	組織の経営方針利益も必要 施設で認められる研修は出回りになるが、枠が限定されるため、ほとんどは私費で参加している。 学会にも参加しにくい。 研究をするための経費はないので、経費のかからない研究をしなければならぬ。
希望	大型研究費獲得に向けた研究グループの構成 研究を進捗するための臨床フィールドの確保 行政資金を獲得して人を雇用したい	臨床でも柔軟可能な研究を進めていきたい。 組織の金銭的負担がなく、かつ組織としてのメリットがある研究に参加したい。	研究にかかりたいので、必要な研修や学会に参加したい。 研究をするための資金と経費があると思う。

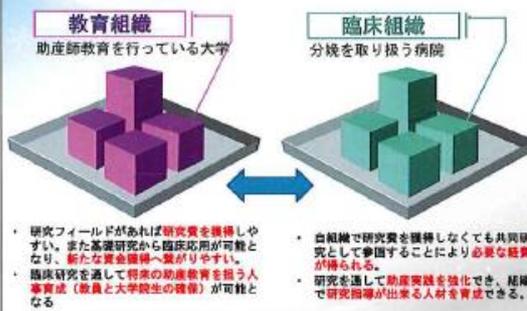
II. 課題解決のための方策

1. アクションプラン1

「教育機関が求める人材と必要要件の明確化」

- 教育機関が求める人材と必要要件を明確にするため、日本の助産教育機関における教員募集要項を分析する。教育組織は助産師教育（母性看護教育を含む）を行っている大学院、大学、専攻科、別科とする。
- 対象とする募集要項は、令和元年12月から令和2年1月にJREC-INに掲載された助手、助教の公募を行っているものとする。
- 研究に関する要件を明確にし、それを入職後5～7年で修得していくための方法とプロセスについて検討する。

両組織がWin-Winな関係になるためには



課題解決のための方策

2. アクションプラン2

「将来の助産教員候補者の研究能力育成を目指した大学主導型の研究プロジェクトの作成」

- 1で得られた研究に関する要件を入職後5～7年で修得していくためのアクションプランを作成する。
- 教育組織と臨床組織のコラボレーションを基本とするが、研究自体は大学主導型とする。
- トランスレーショナル・リサーチをベースにする。
- 実際の外部資金に焦点を当てたりアルな計画を目指す。

Contents



- I. 背景
- II. 課題解決のための方策
- III. アクションプラン1
- IV. アクションプラン2
- V. 評価

ゴール目標

1. アクションプラン1

- 教育機関が求める人材と必要要件について、量的・質的に提示する
→中間報告会にて実施・報告

2. アクションプラン2

- 研究プロジェクトを作成し、実現可能性、妥当性、予測される効果について評価する。
→本研修の受講生に指示し、実現可能性を評価してもらう。
→最終報告会にて実施
・助産教員に、妥当性を評価してもらう。
・助産師（将来助産師候補者になりたいと思っている者・希望しない者）、大学院生に、妥当性を評価してもらう。
・臨床の管理官（部長）に、臨床での実現可能性を評価してもらう。
- 本企業では倫理審査を受けないため、いずれも非公式なヒアリングによるものとする。

教育機関が求める人材と必要要件の明確化

令和元年12月から令和2年1月にJREC-IN掲載検索20

助手 年齢制限はなし。

		大学 (7)
勤務形態	常・非常勤	常勤
任期	任期	あり (1～5年)
応募資格	免許	助産師・看護師 看護師（母性看護学のみの場合）
臨床経験	あり (3～5年)	臨床実習指導者としての経験を有することが望ましい)
アドバンス助産師	記載なし	
学位	修士又は博士	修士があれば望ましい
研究業績	論文1編以上	限わない 記載なし
教育経験	記載なし	

3G. 互恵性のある助産師教育組織の運営



<問題意識>

合理的かつ有効な助産師教育を可能にする
にはどのような運営が考えられるか？

<背景>

- ・ 講義、演習、実習などの教育活動
- ・ 委員会などの学内業務

↓

日々多忙で、時間に追われている
研究やプライベートな時間も確保したい



<これまでの検討経緯>

物品を共同使用することによって、
資金削減ができるのでは？

↓

コロナ禍によって事態は変化
モノの行き来は難しい...

<再検討内容>

- ・ モノの行き来は難しい。
- ・ モノ以外の資源の共有で検討しよう。
- ・ 人員削減、人材不足。
- ・ 現有財産でやるしかない。
- ・ コロナ禍でオンライン講義に慣れた。



<変更点の整理>

 外部講師に依頼している専門的な講義内容について共同開講してはどうか？
指定規則改正に合わせて内容を照合してみよう！

↓

- ・ 外部講師への講義依頼状況
- ・ オンライン講義導入可能性の検討
- ・ オンライン講義導入によるメリット
- ・ 複数機関による資源の共有の実現可能性



<外部講師への講義依頼状況 ①共通点>

- ・基礎助産学、地域母子保健
→3校とも大半を外部の講師に依頼
- ・助産診断・技術学
→ハイリスク、超音波診断、分娩機転の診断。NCPRIは医師へ依頼
- ・助産管理
→助産所管理、地域での助産師の活動は開業助産師、保健師へ依頼。各校とも災害に関する内容は要検討
- ・地域母子保健
→母子保健行政、国際母子保健は専職員、海外での助産師活動経験者へ依頼

<外部講師への講義依頼状況 ②特色>

- ・ペルランド看護助産大学校
岡本喜代子先生による「助産学概論」
「桶谷式乳房管理」
- ・広島赤十字看護大学
「災害と看護」
- ・県立広島大学
「産科医不在地域での助産師の活動」

<オンライン授業導入可能性の検討>

作業内容（資料1）

1. 指定規則の留意点と講義内容の照合
2. 講義を内容に合わせ科目に当てはめる
3. 外部講師者数の確認
4. 依頼コマ数の確認
5. 外部講師依頼に要する時間（内外の調整）の確認
内部調整 45分、外部講師対応 60分と仮定
6. 外部講師謝金の確認
60分12,000円

<導入によるメリット>

指定規則共同開講による時間的・金銭的コスト

・36名に計120コマを依頼

	1校で開講した場合	3校共同開講した場合
内訳調整（時間）	36	12
外部講師対応（時間）	27	9
謝金支払い（円）	144万	48万

<導入によるメリット>

全助協で指定規則教育パッケージとした場合

164校（2020年9月最終更新）がすべて購入した場合

8,780円で120コマ受講可能！



<導入によるメリット>

- ・産科医や小児科医が減少しても安定して講義を提供可能。
- ・より専門的な講義をオンラインで受講できる。
- ・時間的・金銭的コストの削減がはかれる。
- ・一定レベルの講義を受講できる。



<複数機関による資源の共有の実現可能性>

- ・各校共通部分と特色を活かし**指定規則部分を共通開講は可能**と考える。
- ・「指定規則パック」と命名する。



<指定規則パックの活用例>

指定規則パックを視聴し事前学習



- ①対面授業ではディスカッションや臨床をイメージした展開を中心とする
- ②反転授業で、学生が学んできたことを発表する



指定規則部分の共通開講は可能と考えるが、指定規則パックの需要があるか？



需要調査アンケート案作成

<指定規則パック需要調査アンケート案>

アンケートの作成

- ・アンケートはGoogle Form で作成（資料2）
- ・ファシリテーターから助言を受け調査案を決定

実施計画

- ・R3年度に所属機関で研究倫理審査受審
- ・調査は無記名/オンラインで行う。

懸念事項

調査を実施することで会員校にパック導入が決定したかのような誤認を生じさせる可能性がある。

<指定規則パックのマネジメントサイクル>



<指定規則パックの課題>

- ・著作権に触れないか
- ・パソコンを購入するのにお金がかかる
- ・ネット環境の整備が必要

新卒就職支援科目表 (単位表)		
科目・単元	習得点	
基礎知識等 (6)	生涯を通じて、性と生殖に関する健康を営んで支援する活動である助産の基礎について学ぶ	生殖系解剖学 (2)
	母子の命を同時に尊重することに責任を持つ役割を理解し、生命倫理を深く学ぶ	
	母性・女性を育むことを支援する能力を養う	産科看護学 (2)
	対象の身体的・心理的・社会的・文化的側面を総合的にアセスメントする能力を強化する	
	チーム医療や関係機関との連携・連携について学ぶ	
	助産師の専門性、助産師に求められる姿勢、態度について学ぶ	助産学概論(性・対象の身体的・心理的・社会的・文化的側面を総合的にアセスメントする能力)(2)
助産師概論・助産学 (10) ①②	助産の歴史に必要な基本的技術及び分娩等において対象や胎児の専門性を尊重し適切な援助を行うための支援を行うための高いコミュニケーション能力を確実に修得する	助産学概論(性・対象の身体的・心理的・社会的・文化的側面を総合的にアセスメントする能力)(2)
	女性及び家庭への生涯にわたる健康の継続的支援を行う	女性の健康援助学 (2)
	助産師職の役割に必要な助産技術を確実に修得するために、演習を充実・強化する	助産師職・技術学演習 (3)
	妊娠・出産・新生児の健康状態に關するアセスメント及びそれに基づく支援を強化する	助産学概論・技術学概論①※ (1)
	妊娠経過を助産するための能力、産婦からの状態を判断し、異常を予測する臨床判断能力を養い、判断を行う能力を修得する	助産学概論・技術学概論①※ (1)
	分娩期における緊急事態(産後の出血及び産後出血)に迅速に対応し、正しく処置し、正しく処置する能力を修得する	助産学概論・技術学概論①※ (1)
	産後の身体性を尊重した出産を支援し、妊娠・分娩・産後まわりの継続的な支援を強化する能力を養う	助産学概論・技術学概論①※ (1)
	妊婦の多様なニーズに対応した母子保健サービスを提供するための能力を養う	助産学概論・技術学概論①※ (1)
	保健・医療・福祉関係者と連携・協働しながら、地域における子育て支援を協力的に支援する能力を養う	助産学概論・技術学概論①※ (1)
	産後4か月健診までの母子のアセスメントを行う能力を強化する	助産学概論・技術学概論①※ (1)
基礎知識 (2)	助産業務の管理、助産所の運営の基本的及び助産師研修システムについて学ぶ	助産管理学概論 (1)
	産後期における胎児安全の評価と胎児母体への対応、分娩の異常への備えと緊急時の対応について学ぶ	【8】助産管理学演習 (1)
助産実習 (11)	助産師職・技術学、地域母子保健及び助産管理の実習を含む	助産学実習Ⅱ (2)
	実習期間中に妊娠中期から産後1ヶ月まで継続して受け持つ実習を1回以上行う	助産学実習Ⅰ (10)
	妊娠経過観察を通して妊娠経過の判断を行う能力を強化する	助産学実習Ⅰ (10)
	産後4か月健診の母子のアセスメントを行う能力を強化する実習を行うことが望ましい	助産学実習Ⅰ (10)
	産後4か月健診の母子のアセスメントを行う能力を強化する実習を行うことが望ましい	助産学実習Ⅱ (2)
	助産師又は産科の職の下に、学生1人につき正産婦を10回程度産後取り扱うことを目安とする(1回1産婦として正産婦・経産婦分べん、前産婦とし、分べん期1期から産後期まで)	助産学実習Ⅰ (10)

※1 産後・コア科目
※2 産後・コア科目
※3 産後・コア科目
産後実習は各5単位に相当する。

【職位】+学号		学号		大学院新学群にて研究業績に実務する科目	
研究員(6)	土壌を通じて、性と生態に表出する活動である胎動の時期について学号	研究法論 (2)			
	心子の命を同時に尊重することに責任を持つ胎動を確立し、生命線維を深く学ぶ	医学倫理学 (2)			
研究員(7)	同性・女性を看むことを支援する能力を養う	看護ヘルスケアシステム (2)			
	対象の身体的・心理的・社会的・文化的側面を統合的にアセスメントする能力を強化する	ヘルスプロモーション科学 (2)			
研究員(8)	チーム医療や関係機関との連携・連携について学号	医学倫理学 (2)			
	胎産科の専門性、胎産科に求められる姿勢、胎動について学号				
研究員(9)	胎産の実践に必要な技術的知識及び倫理等において対象や他職種との専門性を磨きし過切な 母胎分出生と連携の下で支援を行うための高いコミュニケーション能力を構築する	医学対話学 (2)			
	女性及び産婦への生涯にわたる健康の継続的支援を行う	女性の健康福祉学 (2)			
研究員(10)	胎産過程の初期に必要な胎産技術を構築するために、産道を充実・強化する				
	妊娠・じょうけい・新生児の健康状態に関するアセスメント及びこれに基づく支援を強化する				
研究員(11)	妊婦経過を診断するための能力、産室からの退院を判断し、産室を介する退院判断能力を 養い、判断に関する技術構築する				
	分べん胎動における緊急事態（合併症の発症及び発症に伴う緊急、新生児出生、止血時、 児の異常に対する産婦・産院への支援等）に対応する能力を強化する	リプロダクティブ・ヘルス増進Ⅰ (2)	リプロダクティブ・ヘルス増進Ⅱ (2)	リプロダクティブ・ヘルス増進Ⅰ (2)	リプロダクティブ・ヘルス増進Ⅱ (2)
研究員(12)	胎産科の主体性を尊重した出産を支援し、妊娠・分娩・分娩後 継続的な支援を強化する能力を養う	リプロダクティブ・ヘルス増進 (1) 調査と検討			
	妊婦の多様なニーズに対応した母子保健サービスを届出する能力を養う				
研究員(13)	妊娠・産後・産後回復者と連携・協働しながら、地域における子育て世代を包括的に 支援する能力を養う				
	産後から産後までの母子のアセスメントを行う能力を強化する				
研究員(14)	胎産科の管理、胎産科の運営の基本及び胎産科システムについて学号				
	胎動科における胎産科の環境と胎産科員への対応、中時の異常への備えと 胎動科の対応について学号				
研究員(15)	胎産科科・技術学、地域母子保健及び胎産科の連携を含む				
	胎産科科中に妊娠中期から産後1ヶ月まで継続して受け付け実習を1例以上行う				
研究員(16)	妊婦経過を強化して妊婦経過の診断を行う能力を強化する				
	産後1ヶ月の産後ケアや1ヶ月継続胎動までの母子のアセスメント及び母子と連携を 支援する能力を強化する				
研究員(17)	産後4か月間の母子のアセスメントを行う能力を強化する実習を行うことが望ましい				
	胎動科は胎動科の業務の下に、学生1人につき産後10日間産後ケアを行うことを目安と する(1例一原則として産後・産後分べん・産後胎動とし、分べん胎動1例から胎動科まで)				

特定分野(助産)における保健師助産師看護師実習指導者講習会

1) 目的

助産師教育に携わる実習指導者または将来実習指導者となる予定の者および教員が助産師教育に関する理解を深め、助産学実習における効果的な指導のために必要な知識、技術を修得することを目的とする。

2) 科目内容

科目	科目目標	内容	時間数
教育及び助産に関する科目	教育原理	助産師教育の基礎となる教育の本質や基本原理について理解する	1.5
	教育心理	助産師教育の対象となる青年期の心理的特徴と課題について理解する	3
	教育方法	助産師教育の基礎となる基本的な教育方法を理解する	1.5
	教育評価	助産師教育の基礎となる教育の評価方法を理解する	1.5
	助産学教育課程	助産学教育課程とその概要について理解する	3
実習指導に関する科目	実習指導の原理	実習指導の基本と実習指導者のあり方について理解する	3
	助産学実習指導の実際Ⅰ(講義)	助産学実習指導方法を理解する	3
	助産学実習指導の実際Ⅱ(演習)	助産学実習指導の展開について理解を深め、演習を通してその実際を学ぶ	24
開講式・閉講式			0.5
計			41

3) 2020年度実績

臨地実習指導者対象の研修のため、2020年度は中止した。

e-learning 研修

1) コンテンツ

コンテンツ	講師	内 容	アドバンス助産師	
			分野	時間数
助産論	安達久美子先生	助産ケアの理念と助産師倫理綱領 女性の人権と健康、助産と生命倫理	倫理 or WHC	1.5h
助産論演習	郷原 寛子先生	学校経営と管理	管理 or WHC	1.5h
助産師教育方法論	村上 明美先生	助産師教育における教授・学習計画作成 の考え方	教育 or WHC	1.5h
助産師教育方法論Ⅰ	高橋 弘子先生	助産師教育における教授・学習活動の成 立① 助産師教育の歴史	教育 or WHC	1.5h
助産師教育方法論Ⅱ	高橋 弘子先生	助産師教育における教授・学習活動の成 立② 現代の助産師学生	教育 or WHC	1.5h
助産師教育方法論Ⅲ	高橋 弘子先生	助産師教育における教授・学習活動の成 立③ 教育現場で活用したい学習理論	教育 or WHC	1.5h
助産師教育課程Ⅰ	佐々木幾美先生	教育課程の基本原理	教育 or WHC	1.5h
助産師教育課程Ⅱ	佐々木幾美先生	教育課程と法律	教育 or WHC	1.5h

2) 2020 年度配信数

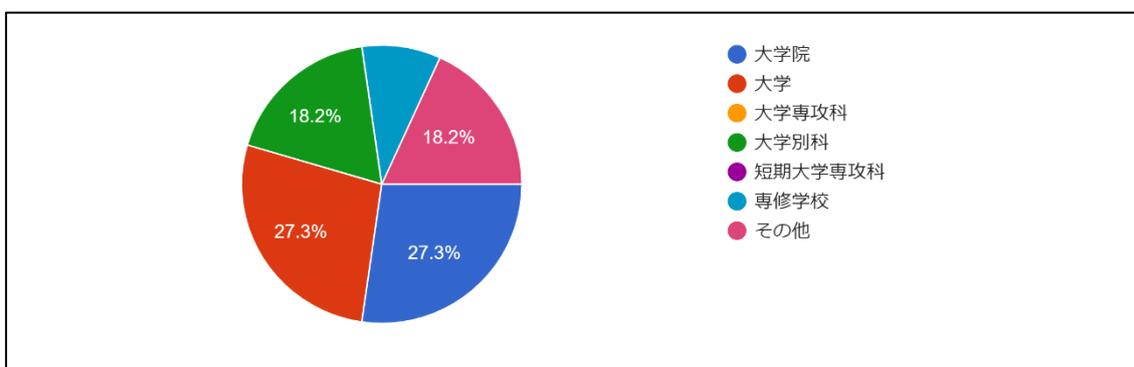
24 件

3) 講義の評価

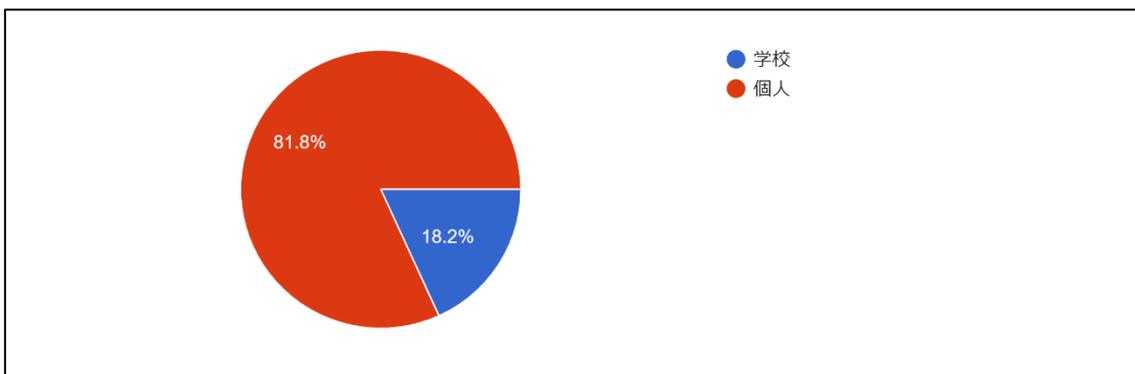
2020 年度全国助産師教育協議会 e-learning 研修購入者アンケート

24 件中 11 件回答

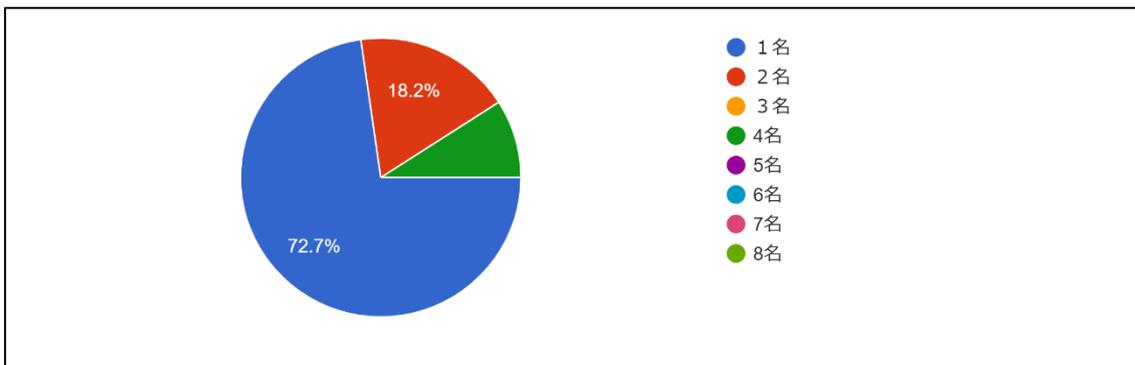
1. ご所属の助産師教育課程をお選びください (11 件の回答)



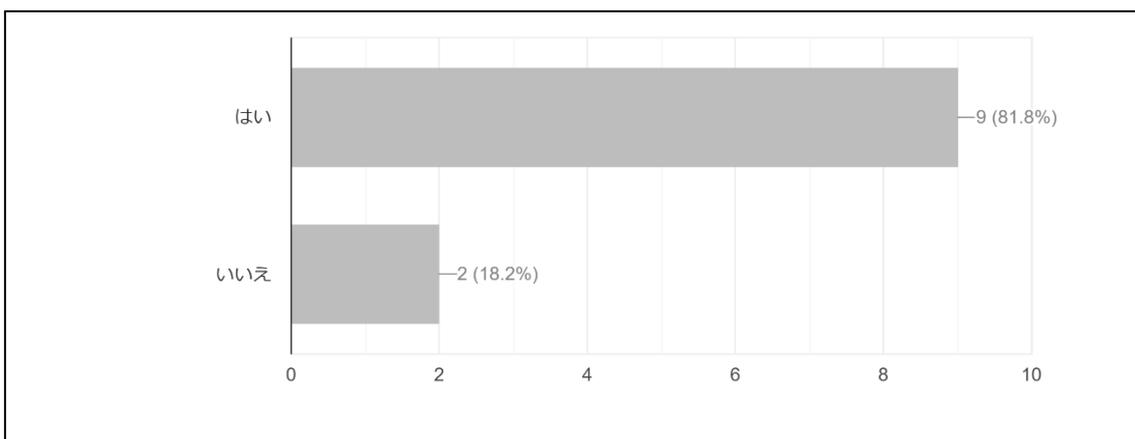
2. e-learning 教材は、学校単位で購入されましたか？または個人で購入されましたか？（11件の回答）



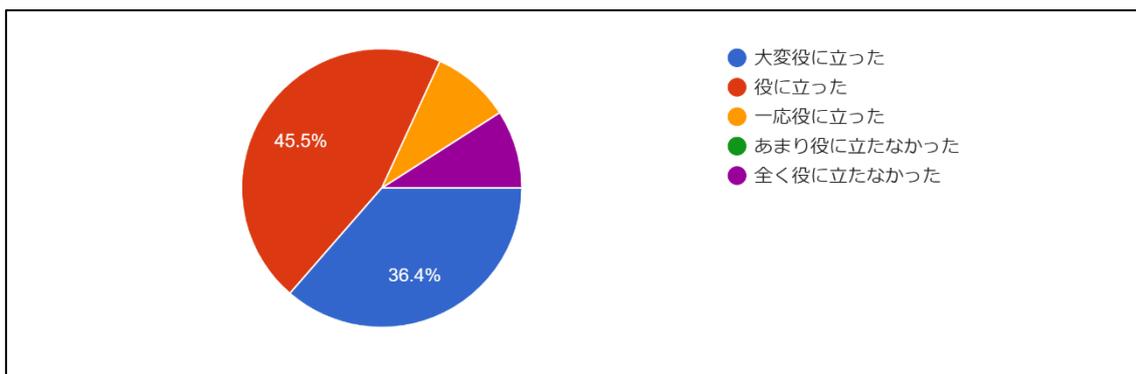
3. 学校単位で購入された方のみご回答ください。貴校の助産師教員のうち、何名が e-learning 教材を利用されましたか？（11件の回答）



4. e-learning 研修サイトまでのアクセスは容易でしたか？（11件の回答）



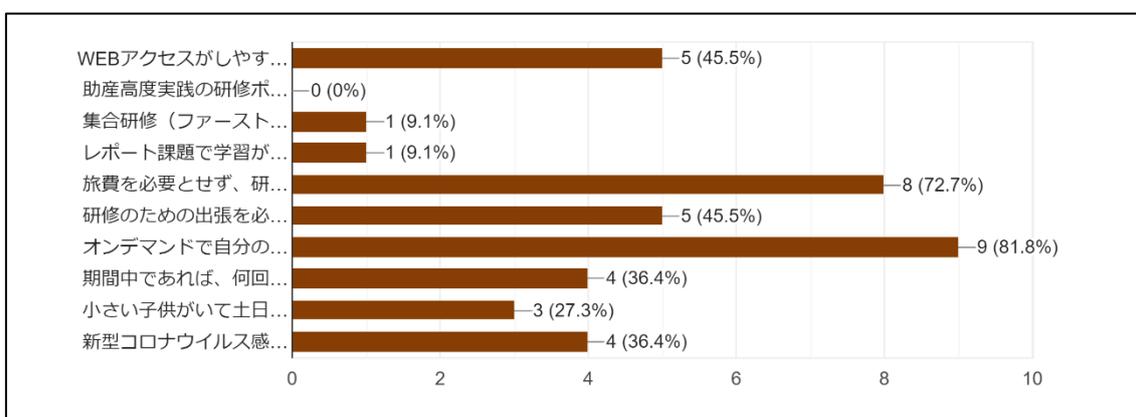
5. e-learning 研修サイトを視聴して、役に立ったと思いますか？（11件の回答）



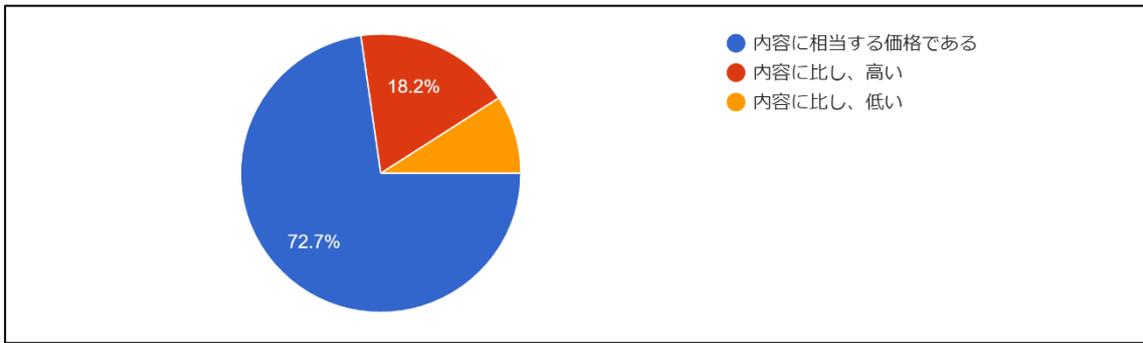
6. e-learning 研修はどのように役に立ちましたか？役に立ちませんでしたか？前問の回答の理由をご自由にお書きください。（6件の回答）

- ・教科書の内容がそのまま使用できてよかった。
- ・自分の講義にも活かせる
- ・助産師教育についての考え方が、歴史的な側面を含めて理解することができた。
- ・視聴を中断することもあったが、何度も拝聴できたので大変勉強になった。日頃から多忙にかまけてきちんとした情報収集をしておらず不安だったが e-learning を視聴してわかる事、わかっていないことが確認できた。
- ・専修学校なので助産学科の学習は意味が無く興味もない。金銭儲けの匂いしかない。アドバイス助産師の活用法も分からない。意味がないならこの複雑な教員区分を取得する意味がないと思う。
- ・助産学概論の講義に活用出来る。

7. e-learning 教材を使用した感想について、該当するもの全てにチェックをつけてください（11件の回答）



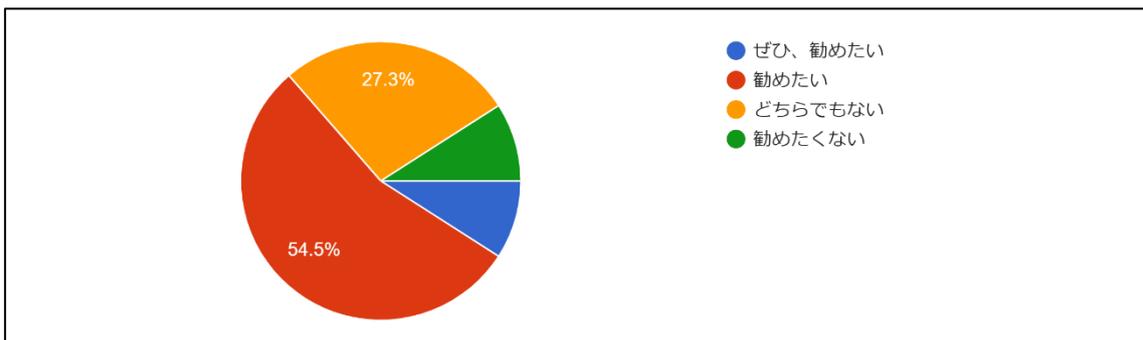
8. 販売価格（44,000円）は、妥当だと思いますか？（11件の回答）



9. 前問で『内容に比し、高い』『内容に比し、低い』と回答された方にお聞きします。適切と思う価格を教えてください。（3件の回答）

- ・1~2万円DVDがほしい。
- ・e-learningを受けて。と言う質問に当てはまる答えがありませんでした。
- ・内容は良かったのですが、他のオンデマンド講座と比べ倍額の印象です。

10. 他の人にも、このe-learning教材パッケージを勧めようと思いますか？（11件の回答）



11. 購入後の使用期限についてお聞かせください。年度をまたいでの使用は再度の購入が必要です。このことについてご意見がありましたら、何をどのようにしたらよいかお考えをお聞かせください。（3件の回答）

- ・購入時期を軸に提供してほしいとも思う。しかし、年度の切り替えて同じ教材購入が安く購入できるシステムはいいと思う。その際、何度か繰り返し聞きたいと思う科目もあることも更けM、セットではなく単科にさせていただくといいと思う。
- ・DVDがほしい。
- ・単年度で。期限が無いと観ない。

12. 今後、全国助産師教育協議会でe-learningの教材開発を推進していくために、どのようなことを考えたらよいかお聞かせください。（4件の回答）

- ・教員と臨床指導者などそれぞれの立場の違いもあるかと思うので、それぞれ向けがあってもいいかと思う。e-learningでもステップアップがあるといい。
- ・ナーシングチャンネルのようにいつでも見られたら良い。

- ・ 助産学実習の事例は大変役立ちました。事例が動画で配信されるともっとリアリティがあってよいかと思います。作りたいのですがなかなかできずにいます。各学校などが 一例づつなど動画を作ればかなりの財産になるのではないかと思います。
- ・ お金儲けとしか考えられない。アドバイス助産師もう要らないです。

13. そのほか、全国助産師教育協議会主催の研修に期待する事、やってほしい活動等、ご意見をご自由にお書きください。（4件の回答）

- ・ 講義、発表はよいが、無駄の時間もある。集中できないときは退出したい。自由時間はグループに企画時間は任せてほしい。90分でよい。家庭があると夜の3時間は迷惑の時もある。
- ・ これからの助産師教育の展望と教員としてどのような準備が必要かなどを考える機会を定期的に行ってほしい。
- ・ 講師の先生方にご多用の中、ご教授くださりましてありがとうございました。
- ・ アドバンス助産師の規定をコロコロ変えないで欲しい。専修学校と、助産学科、大学院の教員とは全く違う。

V. センター事業における CLOCMIP® レベルⅢ認証申請のための研修一覧

2020年度 アドバンス助産師更新要件の指定研修(助産師教育研修研究センター主催)								
期間	主催	研修プログラム	申請時間	分野	時間数	研修スタイル	開催日	
2020年度	全助協(セ)	2020年度の特定分野(助産)における保健師助産師看護師実習指導者講習会は中止となりました。 特定分野(助産)における保健師助産師看護師実習指導者講習会	44.0h	教育	44.0h	集合	東京・大阪 7/17～19 大阪:8/21～23 東京:9/11～13	
	全助協(セ)	2019年度(2020年3月)のファーストステージ研修が延期となり、2020年9月に開催した 2019年度 1st研修(科目履修)/助産師教育評価	22.5h	教育またはWHC 研究またはWHC コミュニケーションまたはWHC	13.5h 3.0h 6.0h	オンライン研修	2020/9月	
	全助協(セ)	2019年度(2020年3月)のセカンドステージ研修が延期となり、2020年11月と2021年3月に開催した 2019年度 2nd研修(科目履修)/助産師教育運営組織論	50.0h	教育またはWHC 研究またはWHC コミュニケーションまたはWHC 倫理またはWHC 管理またはWHC 25.0hを任意の上記分野に任意時間配当可	5.0h 5.0h 5.0h 5.0h 5.0h 25.0h	集合&オンライン研修	2019/11/4 集合 2020年11月29日 オンライン 2021年3月6日 オンライン	
	全助協(セ)	1st研修(科目履修)/助産師教育課程	22.5h	教育またはWHC	22.5h	オンライン研修	2020/11月～2月	
	全助協(セ)	1st研修(科目履修)/助産師教育方法論	39.0h	教育またはWHC	39.0h	オンライン研修	2021/2月～5月	
	全助協(セ)	1st研修(公開講座)/医学教育の現状と課題	1.5h	教育またはWHC	1.5h	オンライン研修	2020/12/12	
	全助協(セ)	1st研修(公開講座)/職能団体における教育に関する役割と連携:日本助産師会	1.5h	管理またはWHC	1.5h	オンライン研修	2021/1/10	
	全助協(セ)	1st研修(公開講座)/職能団体における教育に関する役割と連携:日本看護協会	1.5h	管理またはWHC	1.5h	オンライン研修	2021/1/24	
	全助協(セ)	e-learning研修/助産師教育における教授・学習計画作成の考え方	1.5h	教育またはWHC	1.5h	e-learning	2020/6～2021/3	
	全助協(セ)	e-learning研修/助産師教育における教授・学習活動の成立①	1.5h	教育またはWHC	1.5h	e-learning	2020/6～2021/3	
	全助協(セ)	e-learning研修/助産師教育における教授・学習活動の成立②	1.5h	教育またはWHC	1.5h	e-learning	2020/6～2021/3	
	全助協(セ)	e-learning研修/助産師教育における教授・学習活動の成立③	1.5h	教育またはWHC	1.5h	e-learning	2020/6～2021/3	
	全助協(セ)	e-learning研修/教育課程の基本原則	1.5h	教育またはWHC	1.5h	e-learning	2020/6～2021/3	
	全助協(セ)	e-learning研修/教育課程と法律	1.5h	教育またはWHC	1.5h	e-learning	2020/6～2021/3	
	全助協(セ)	e-learning研修/助産ケアの理念と助産師倫理綱領、女性の人権と健康、助産と生命倫理	1.5h	倫理またはWHC	1.5h	e-learning	2020/6～2021/3	
	全助協(セ)	e-learning研修/学校経営と管理	1.5h	管理またはWHC	1.5h	e-learning	2020/6～2021/3	
	※1st研修→ファーストステージ研修 2nd研修→セカンドステージ研修							
	* 1st研修全科生は、120時間の研修(マナティ10時間、専門的自立能力100時間、ウィメンズヘルスケア能力10時間)と臨地実習15時間に置き換えることができる。							
	* 1st研修科目履修はウィメンズヘルスケアに置き換えることができる。							
* 2nd研修1科目2単位(30時間)修了者は更新要件50時間を認める。1)教育及び臨地実習5時間・2)研究5時間・3)コミュニケーション5時間・4)倫理5時間・5)助産管理5時間。残り25時間分は1)～5)の該当を任意で決められる。								
* 全国助産師教育協議会が主催する全国研修会で毎年、研究1コマ(1.5H)、倫理1コマ(1.5H)の研修を行う。								
* 全国助産師教育協議会の助産師教育研修研究センターが毎年、研究5コマ(7.5H)、倫理4コマ(6.0H)の研修を行う。								
* 研究・倫理に関して、日本助産実践能力推進協議会5団体と都道府県看護協会および都道府県助産師会が主催する研修会を認める。								
*各研修の申し込み・詳細は全国助産師教育協議会のHPあるいは事務局へお問合せ下さい。また、研修内容は随時追加されていきます。								

2020年度 助産師教育研修研究センター運営委員会

センター長 平澤 美恵子

委員 浅見 恵梨子

恵美須 文枝(2021年3月まで)

岡山 久代

倉本 孝子

白石 三恵

中山 香映

萩原 直美

藤井 宏子

山崎 圭子(五十音順)

担当理事 渡邊 典子

事務職員 内田 奈巳